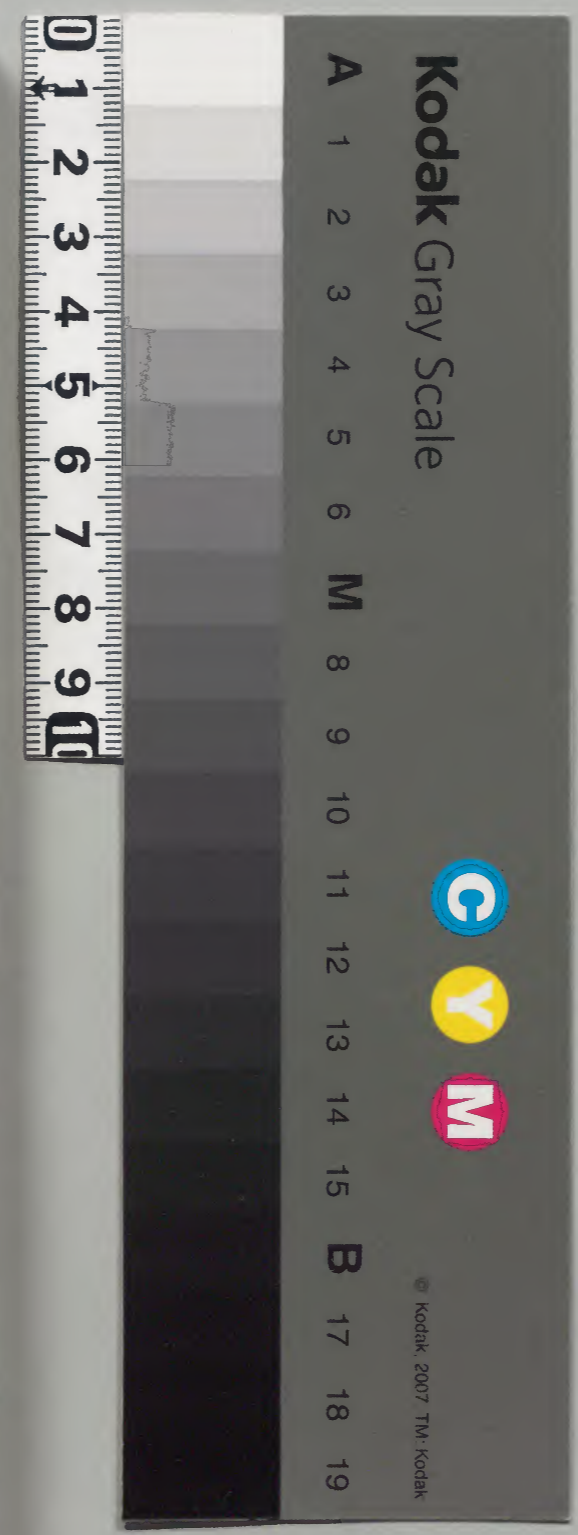


和名所圖書 後編 卷之五

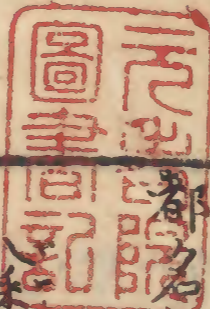
					和書門
一	一	八	二		
一	二	七	二		
冊	架	函	號	類	

					和書
七		八			
二		七			
函		二			
一		二			
架		冊			
		號			
		類			

内閣文庫	
番號	和 8872
冊數	11 (5)
函號	172 177



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



都名所圖會卷之五目錄

前朱雀

八幡疫神系

神宮寺

常盤地藏

狐川渡

阿弥陀堂

下高良社

石清水

上高良社

細橋

新向橋

志水

正法寺

大荒木森

浮田森

城南社

秋の山

美福門院墓

西行寺

冠石 墓盤梅

鐘本町

墨深松

城山 梅の名所

放生川

宿院

鳩峯

琴塔

瀧本坊旧跡

女帯花塚

淀川

竹田

西行松

墨深

梅谷 梅の名所

餌飼地藏

疫神堂

八幡宮

景清塚

御祭礼屋 放生舎 末由

淀姫社

水車 夜舟

北向不動院

安樂壽院

墨深寺

涼茶少将旧跡

伏見寺
 瑞光寺
 石峯寺
 栗栖小野
 少将通路
 一言寺
 長明方丈石
 京橋船場
 榎川橋
 三室戸寺
 茶坊圖
 宇治橋
 朝日山
 伏見
 元政墓
 即成院
 小野
 下醍醐
 笠取山
 石田
 豊後橋
 小幡
 宇治山
 宇治川
 通善茶屋
 惠心院
 藤森社
 昭宣公墳
 那須五墳
 小町水
 上醍醐
 日野茶師堂
 佛國寺
 指月
 弥陀次郎跡
 喜撰嶽
 山吹池
 橋寺
 真聖寺
 走馬圖
 宝塔寺
 桓武帝陵
 柏の本
 醍醐水
 重衡塚
 御香宮
 六地藏
 茨原山万福寺
 宇治十帖古跡
 橋小幡跡
 雜宮神
 琴坂

龜石
 槇の橋
 槇尾山
 鎧龜松
 點汲圖
 笠峯金胎寺
 塊社
 玉川
 蟹瀨寺
 一休和尚跡
 狗屋
 常木林
 加茂社
 山吹
 橋姫社
 平等院
 扇芝
 宇治田原
 百丈大智寺
 玉水
 井手里
 涌社
 天神社
 瓶原
 海修山寺
 清見河原
 中宿芝
 浮舟橋
 鳳凰堂
 駒麿松
 黄栗焼栗林
 久世路坂
 諸兄公旧跡
 光明山
 北野神童寺
 綴喜林
 根社
 恭仁郡
 笠置寺
 靈將
 鴉飼池
 約殿
 縣社
 信西入道墓
 推尾山
 玉井寺
 高倉宮靈廟
 薪酬恩庵
 本津川
 國分寺
 流園
 後醍醐帝皇居

八幡
神宮寺

徳正法師

やしろ
月之
久遠
あり
る



石清水
流の
絶



八幡
御旅所疫神社
阿弥陀堂

徳の羊

新橋

やりの山

さりの

井の

め

と



川並

ふん

ま

岩の

松

のえ

橋



石清水正八幡宮の王城の南に於て約程四里綴喜郡男山鳩嶺正八幡宮あり

やうてふたれ初し志あめゆふに於て松風をぬく 後鳥羽院

本社の二坐所多る譽田天皇 日本紀小足仲彦天皇又應神天皇も是神哀天皇

聖壽一百 玉依姫 東の回小鎮坐しゆ入鴉鷲草嘗不合尊の妃 神功皇后 西の回小鎮

十一歳 同化天皇の曾孫氣長宿禰の女より知より聰明唐智額容壯番向す當帝元年

三韓平て統案小ありて應神帝と生ゆへ位六十九年聖壽一百歳

當山正八幡宮坐し貞觀二年六月十五日和別大安寺の沙門行教和尚神

殿造宮より行教の筑紫宇佐八幡宮又八幡宮所陀室あり

益と大京の経夜直言を誦して法樂せし八幡宮所陀室あり

我王城の近不遷坐して國國守後一國家安泰恭祝すめんとの事い其

夜行教の之を不阿弥陀の三尊現しゆり沙門都下上つて此由伝奉聞し

多しを朝廷大不悦せり後し承小此に神殿と宮て永崇致しゆり

八幡の神統い伝承宮崎駿松の下小八幡の儀存り赤松四流白松四流則は所に

社と建て正八幡大菩薩と崇奉る又一流といれぬ儀傳ふ流してりまの奉由八幡丸

同くは名を承りあり當社を神教の神傳より兩部より承りて承りて神傳の座と

とより一鳥居 下宿院あり八幡宮の藝ハ佐理卿の多るり旧換しゆり

二鳥井 七曲の三鳥居 大師堂の前より石柱小銘と彫正保二年正月從四位

若宮 仁徳天皇 宇禮姫皇祀 水若宮 宇治の皇子を奉る

上高良 武内大臣を奉る大朝の位下小 下高良 藤大は連保保保を奉る神號高良

奉行しゆり故ふ 石清水 本殿の藝ハ半殿あり 玉無し号とて

松と抱い又と暮むとる流あり末と流くつるまのん 貫之

神うたやうけとを承る石清水をまんとせ末と久一丸 為家

楠樹 神殿の外西の回廊 楠 東回廊の外あり 判官正成所換のため被撰

安宗別當社 楠の傍あり行教和尚の身子 持尾社 本殿の西大回廊あり

大塔 大日多宝の二尊あり 琴塔 毘沙門天を奉る軒の四方より 太子堂 此堂を太子殿

像阿弥陀佛等あり 藥師堂 護國寺より當社正鎮座以前の像あり 阿弥陀堂

安宗別當社 元二天師堂 大師の神傳の御の君の御を 愛染堂 盛徳院より奉る

疫盡堂

一節居の南廊下の内より所八幡宮御旗所之疫神ハ正月十九日

正月十八日

より十九日までは當山ノ釋教にて具年の疫難と拂入るり土老手を薩民

本地堂

疫神堂の西ノ隣ニ極楽寺と稱せん本尊ハ阿彌陀佛脇士ニ

細橋

八幡住吉の二神影向あり所より石版布て橋の礎とす

宮本坊

行教院と号し風といひなる所なり

岡山堂

行教和尚の像あり文殊菩薩の像あり

景清塚

平家の侍士悪七兵衛景清主君の跡と稱し

稲荷社

小鍛冶宗近の所なり

大兼院

宿院科手の同より當山の神宮寺より本尊ハ千手観音

足立寺

本殿の西よりあり神使天皇子刺通鏡ニ帝位あり

赤井寺

當山の社務より二ツ寺あり法華寺新法寺

放生會

例祭八月十五日なり人皇十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事

あり大隅日向の両面より逆乱を故に内裏より

宇佐八幡宮

小幡新誓あり其宮に祭且奉為勝以豆本に社軍引率

放生

八月十六日放生供養あり高橋及橋と安居橋

臨時

二月中午日なり

餅飼地蔵

小野宮の極く金吾寺の御あり若宮八幡あり常盤地蔵

放生會

例祭八月十五日なり人皇十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事

あり大隅日向の両面より逆乱を故に内裏より

宇佐八幡宮

小幡新誓あり其宮に祭且奉為勝以豆本に社軍引率

放生

八月十六日放生供養あり高橋及橋と安居橋

臨時

二月中午日なり

餅飼地蔵

小野宮の極く金吾寺の御あり若宮八幡あり常盤地蔵

放生會

例祭八月十五日なり人皇十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事

あり大隅日向の両面より逆乱を故に内裏より

宇佐八幡宮

小幡新誓あり其宮に祭且奉為勝以豆本に社軍引率

放生

八月十六日放生供養あり高橋及橋と安居橋

臨時

二月中午日なり

餅飼地蔵

小野宮の極く金吾寺の御あり若宮八幡あり常盤地蔵

放生會

例祭八月十五日なり人皇十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事

あり大隅日向の両面より逆乱を故に内裏より

宇佐八幡宮

小幡新誓あり其宮に祭且奉為勝以豆本に社軍引率

放生

八月十六日放生供養あり高橋及橋と安居橋

臨時

二月中午日なり

餅飼地蔵

小野宮の極く金吾寺の御あり若宮八幡あり常盤地蔵

放生會

例祭八月十五日なり人皇十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事

あり大隅日向の両面より逆乱を故に内裏より

宇佐八幡宮

小幡新誓あり其宮に祭且奉為勝以豆本に社軍引率

放生

八月十六日放生供養あり高橋及橋と安居橋

臨時

二月中午日なり

餅飼地蔵

小野宮の極く金吾寺の御あり若宮八幡あり常盤地蔵

放生會

例祭八月十五日なり人皇十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事

あり大隅日向の両面より逆乱を故に内裏より

宇佐八幡宮

小幡新誓あり其宮に祭且奉為勝以豆本に社軍引率

山王宮

宿院のかまろ
ふの芝居放下
仰いろく乃
樹実出そ尺地
あく市とるん
林のあまみ
うん

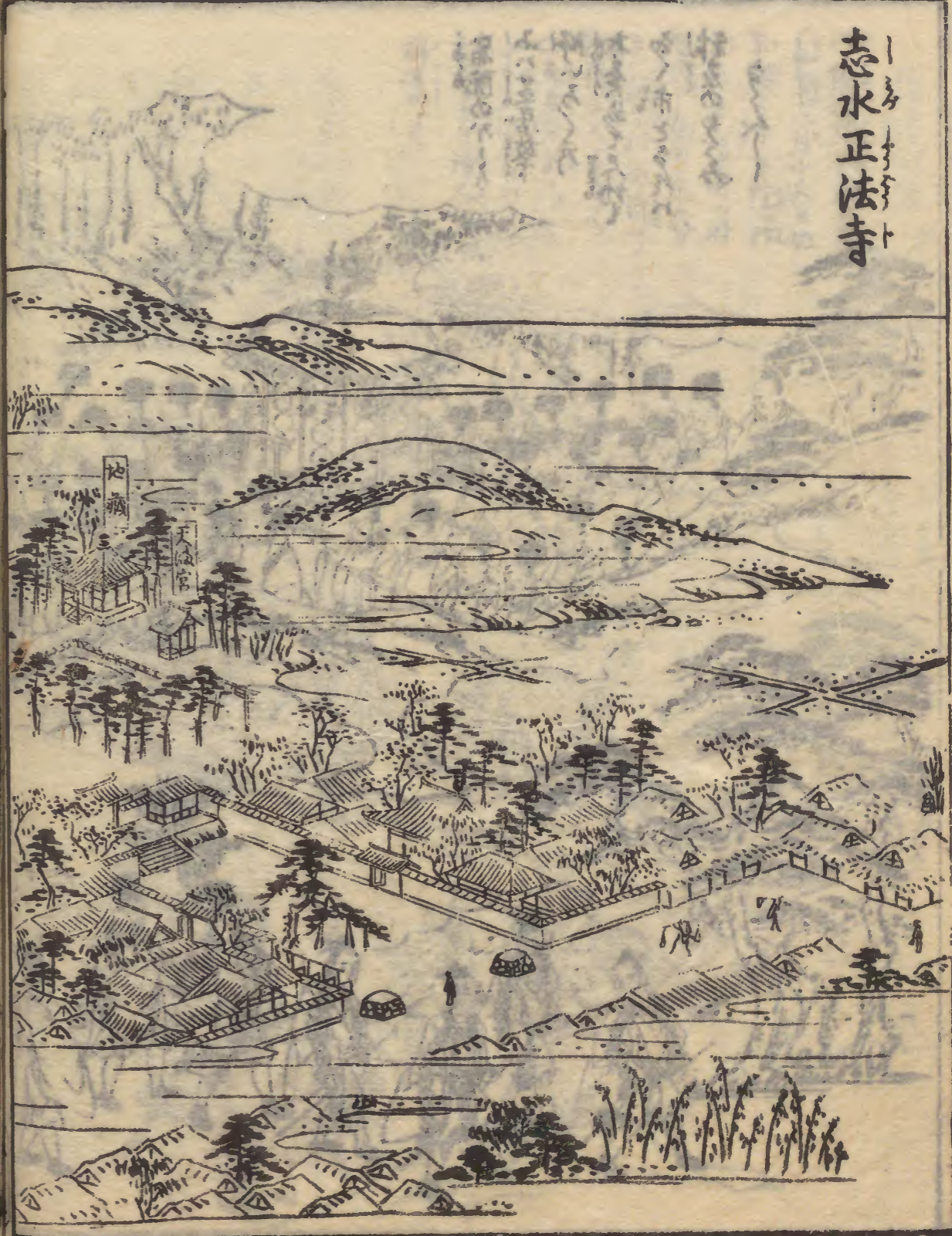
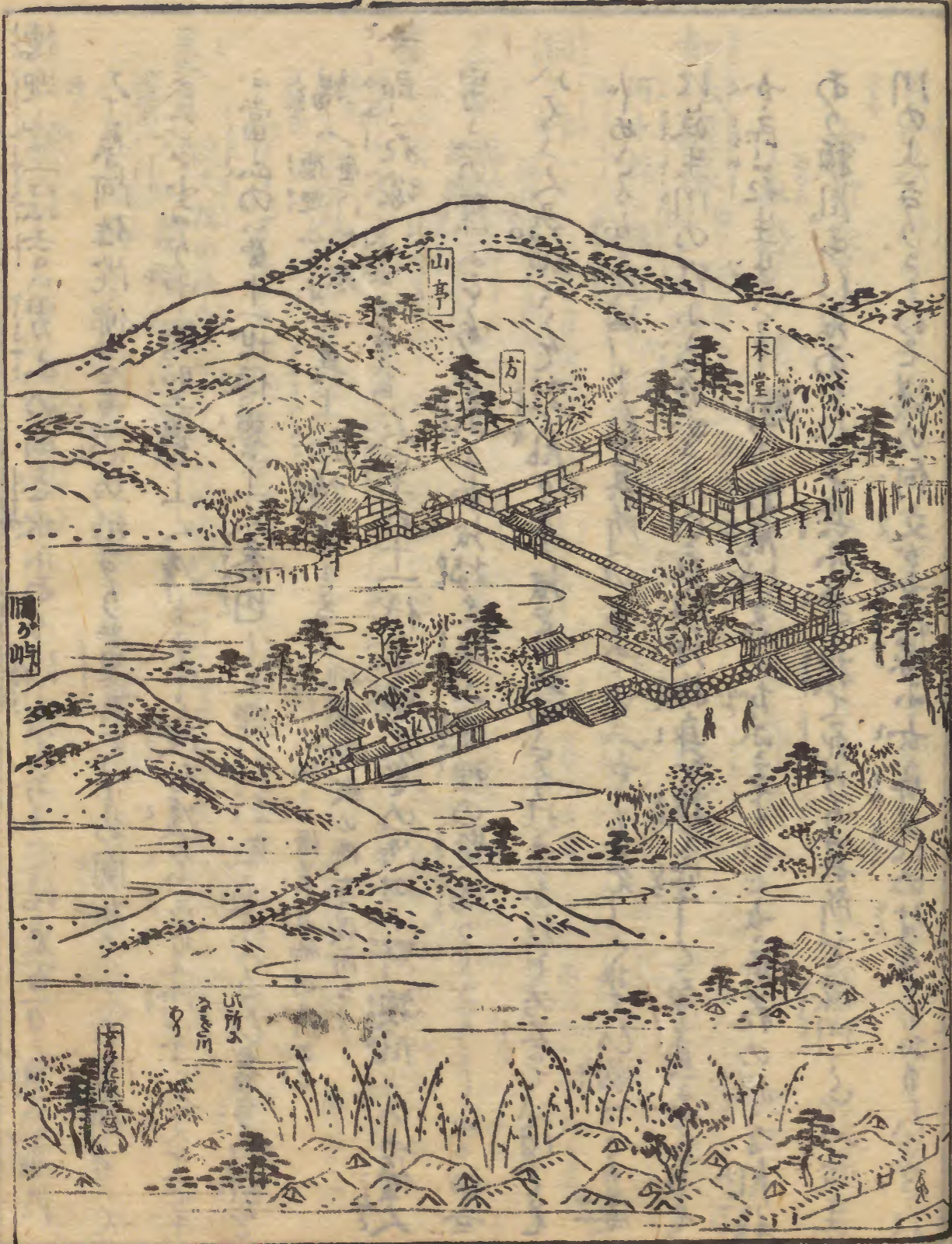


八幡社放生会
毎年八月十六日の
未明より下院社
幸ありては是れ
還幸のあふ十六日
且放生川のけ
社傍にせしむく
の魚鳥を放ら
しむるは五日ハ
遠近より諸人
群集す

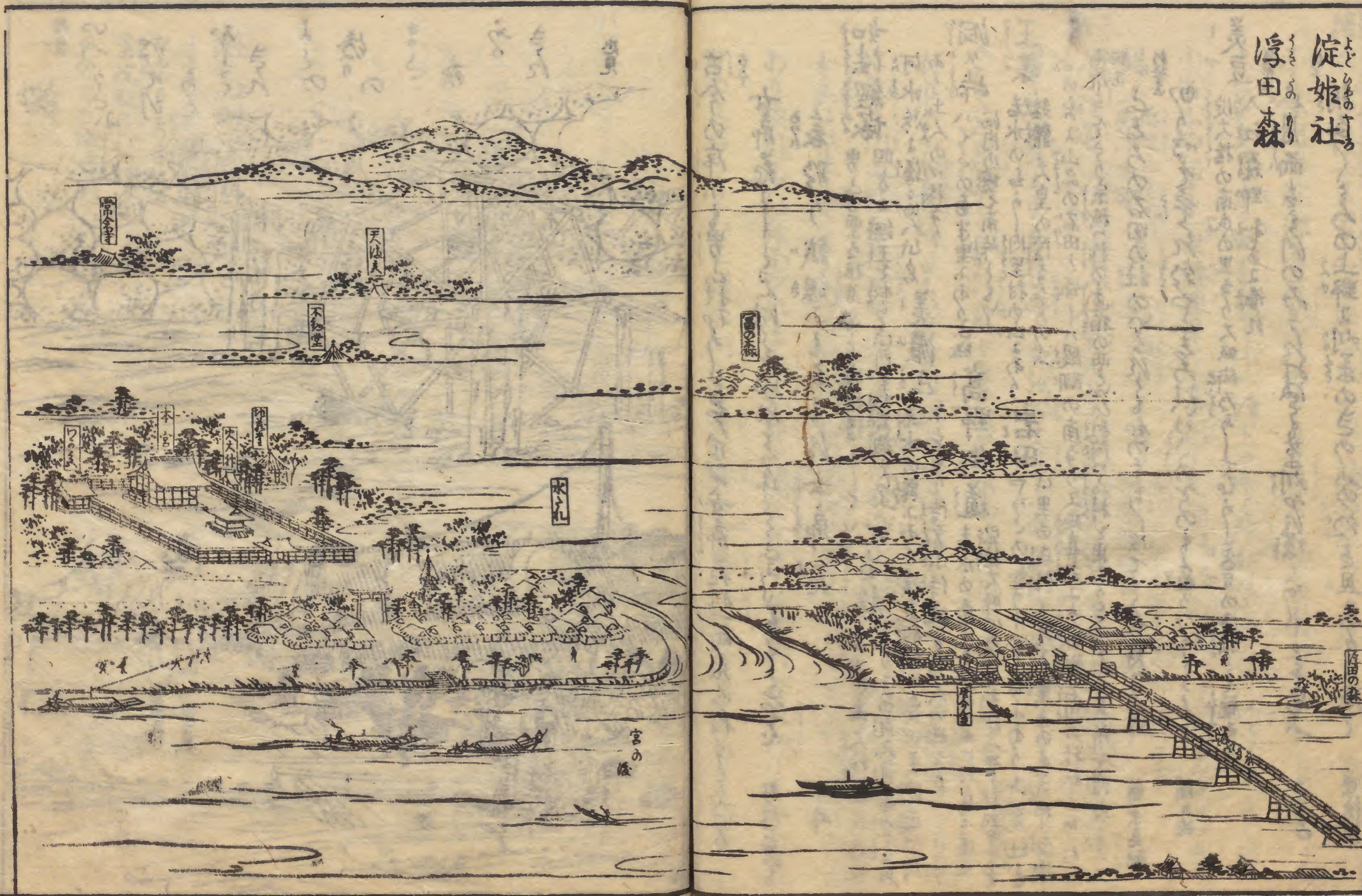


志水正法寺

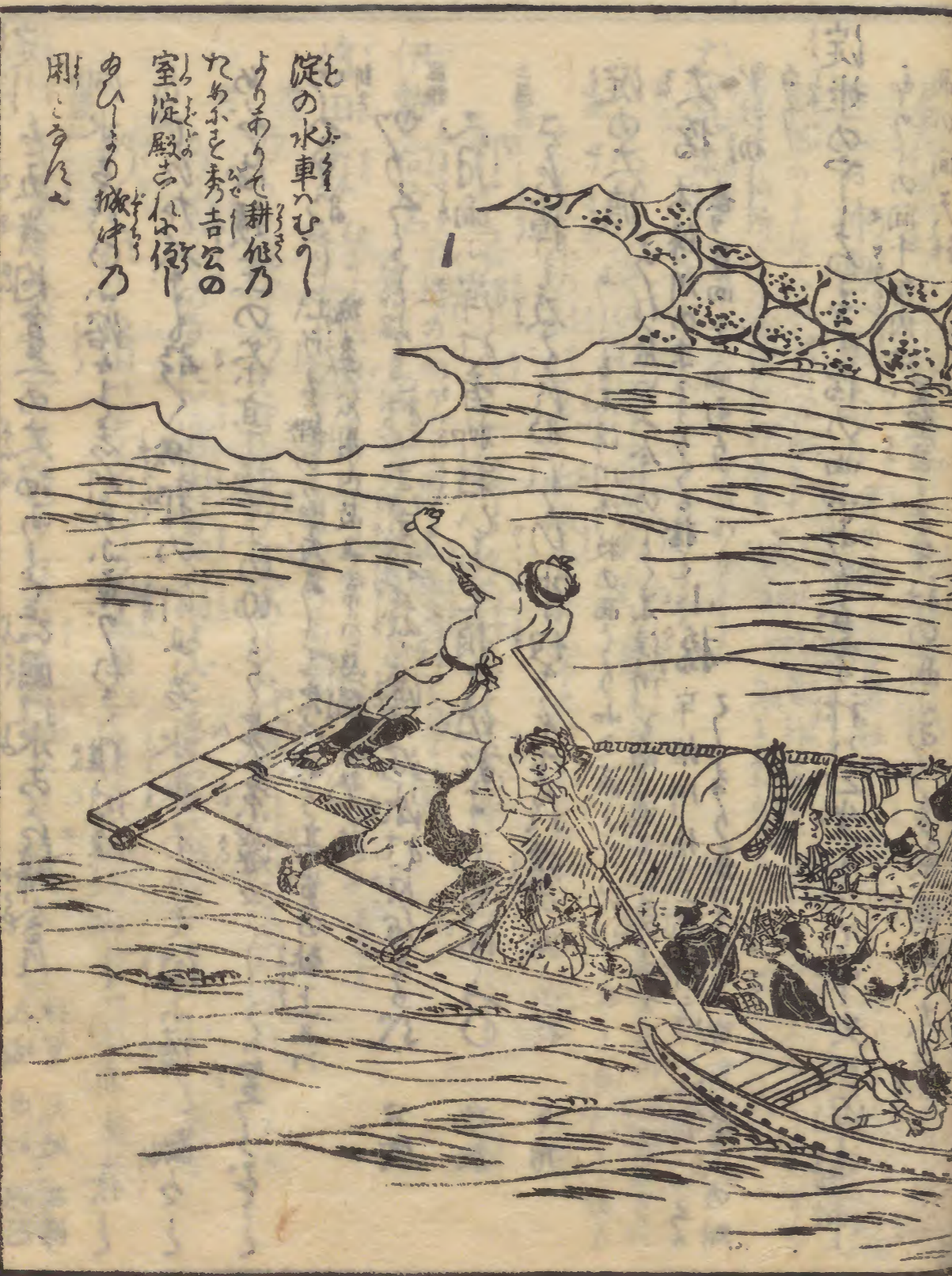
山亭
方
木堂
池
天宮



淀姫社
浮田森

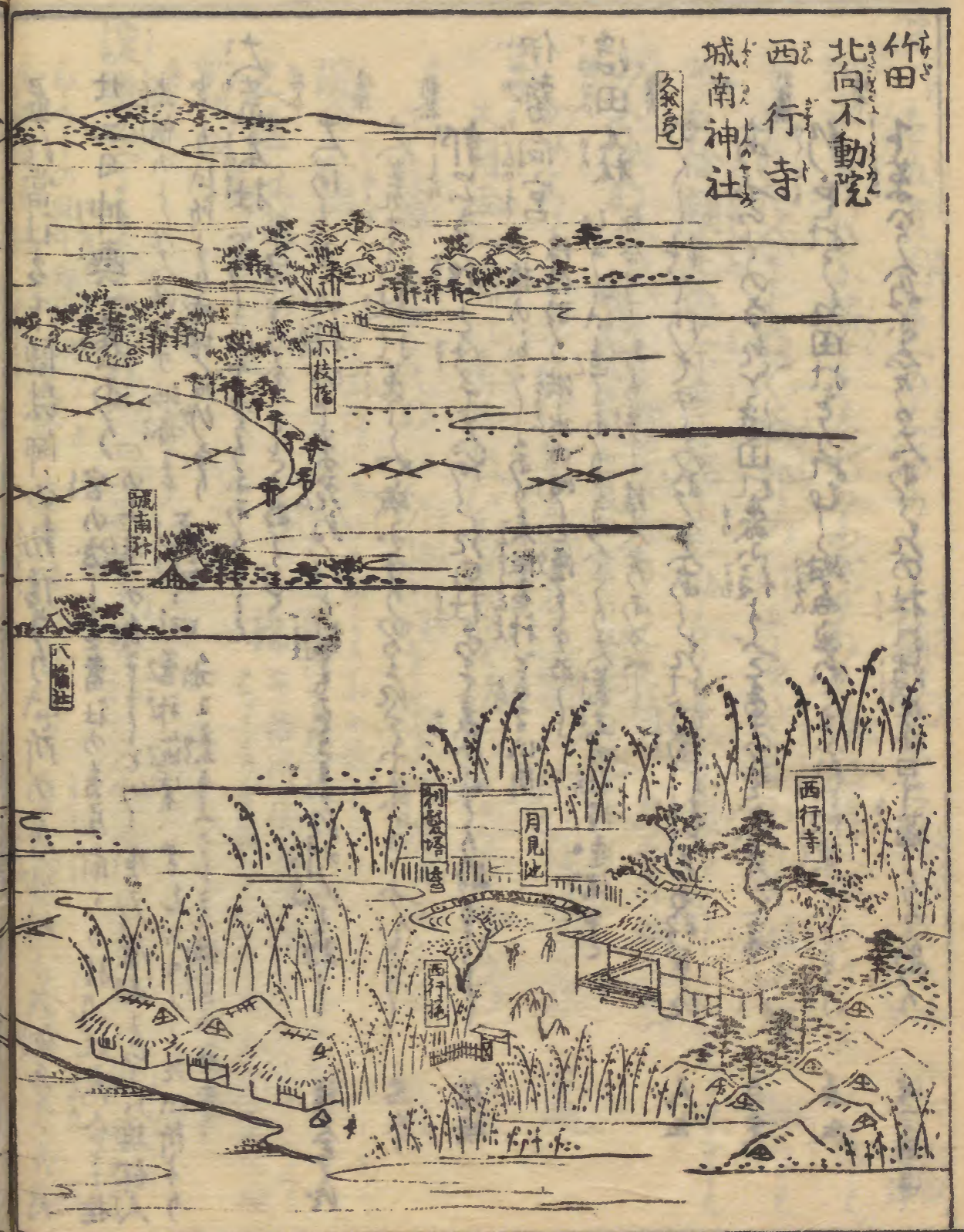
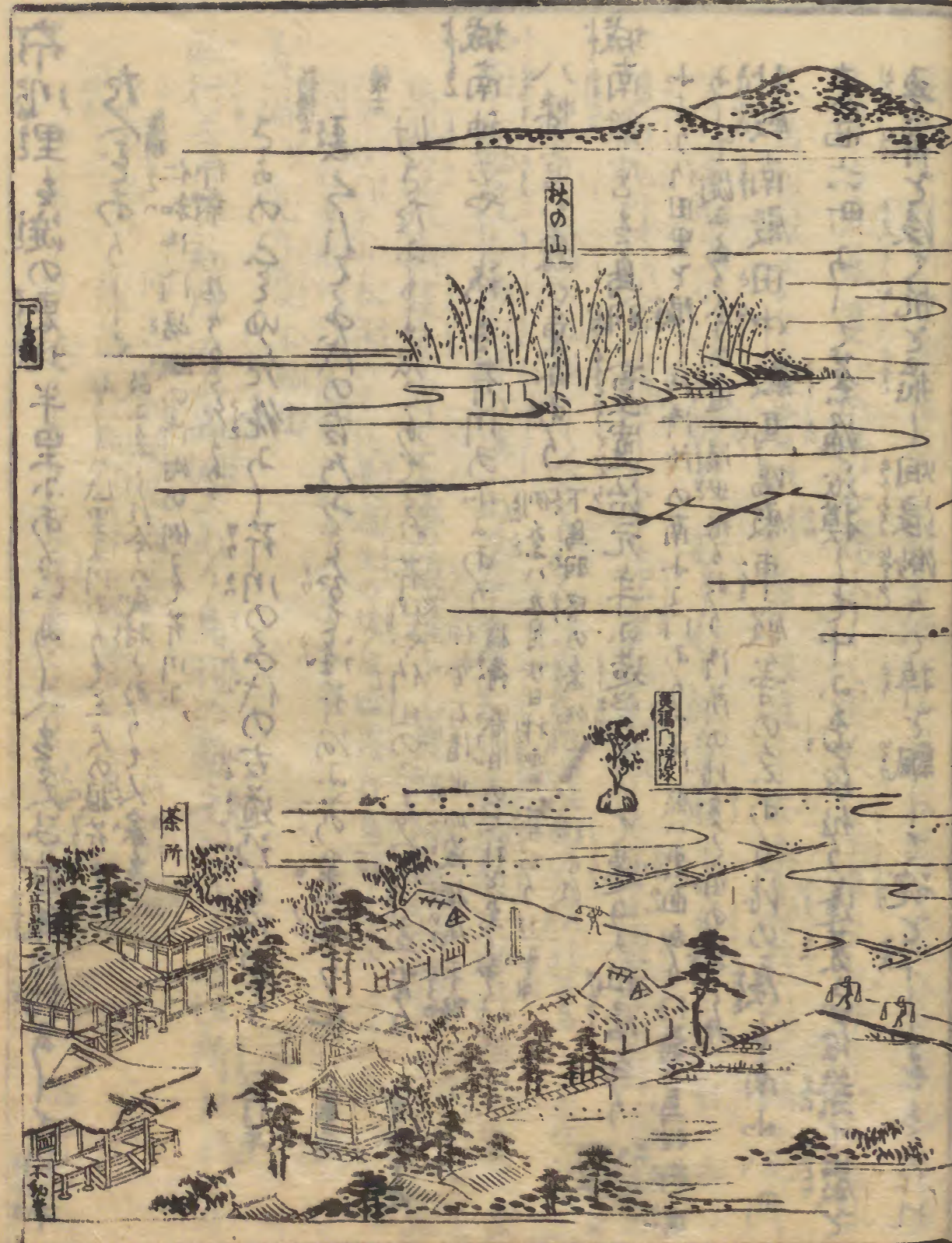


淀の水車はひう
よりありて耕作乃
れあふと秀吉公の
室淀殿は御
由ひより御仲乃
用いりん



拾遺 淀
いつくさふ
鳴せり
かしく
まんの
よりの
の
まご
みん
忠見





竹田
北向不動院
西行寺
城南神社
久我

序
下

半
里

起
音
堂

茶
所

水
池

長
福
門
塔
家

八
門

小
枝
橋

城
南
社

西
行
寺

月
見
池

利
智
塔
堂

西
行
寺

郡川里を淀の東北半里ふありいありへま天子遊獵の地ありてり幸

たふどありりし故ふまは里よりありて三尺の根芥生ん

仁和門塔殿の清州の例して芥川ふ
行幸いなるをたふあり

このふとゆたれあり芥川の子代の古道はをりり行平

雲くんとふ代の古なるをて海芥河ふあり葉摘らん 末茂

けさたふもふねとありてれ芥川や竹田のふありり立ふあり 清金成

城南神のや一海を芥川のふありり伊勢石清水加茂松尾平野

八幡宮の森の東ふあり例案八月廿日社書二基あり且事蹟

城南離宮を鳥羽上皇寛治元年ふ造宮ありて遷り入仙居あり

北殿南殿田中殿馬場殿車殿等の名あり此の殿を南ふ八田

東西六町ありて茶海紙摸して中ふ鳥紙紙り蓬萊ら紙築て巖と

雲舟と後て帆と飛一烟浪渺々と掉と飄して碇と下一表と花れ

陰めて月御音樂紙奏し秋を比水ふ月紙紙りて客秀派と今

上皇とえ來寛仁の清心源ありて里人ふ牛車紙永ゆりりふ人

又鳥羽殿ふとる宸書此は法華紙係し安樂壽院に定海ふ命し

て孔雀明王の法紙修りむざんと法皇崩して忽保元れ乱あり

後白の院へは宮ふ執事ふより次第に甚廢して海ふ田禁とてありふる

るふとねく物懸しとてをりてりるをね田面の秋れ書 園位法師

小向不動院を城南神の良ふあり奉る不動明王興教大師れ他と當院を

鳥羽院に御建立ありて王城の鎮護と寶祚延長に勅預所也 興教大師

の毘沙門天ふ糸を結のふは曇遮對の珠紙感塔に鳥羽上皇ふ

美福門院の陵 不動院 門ありあり

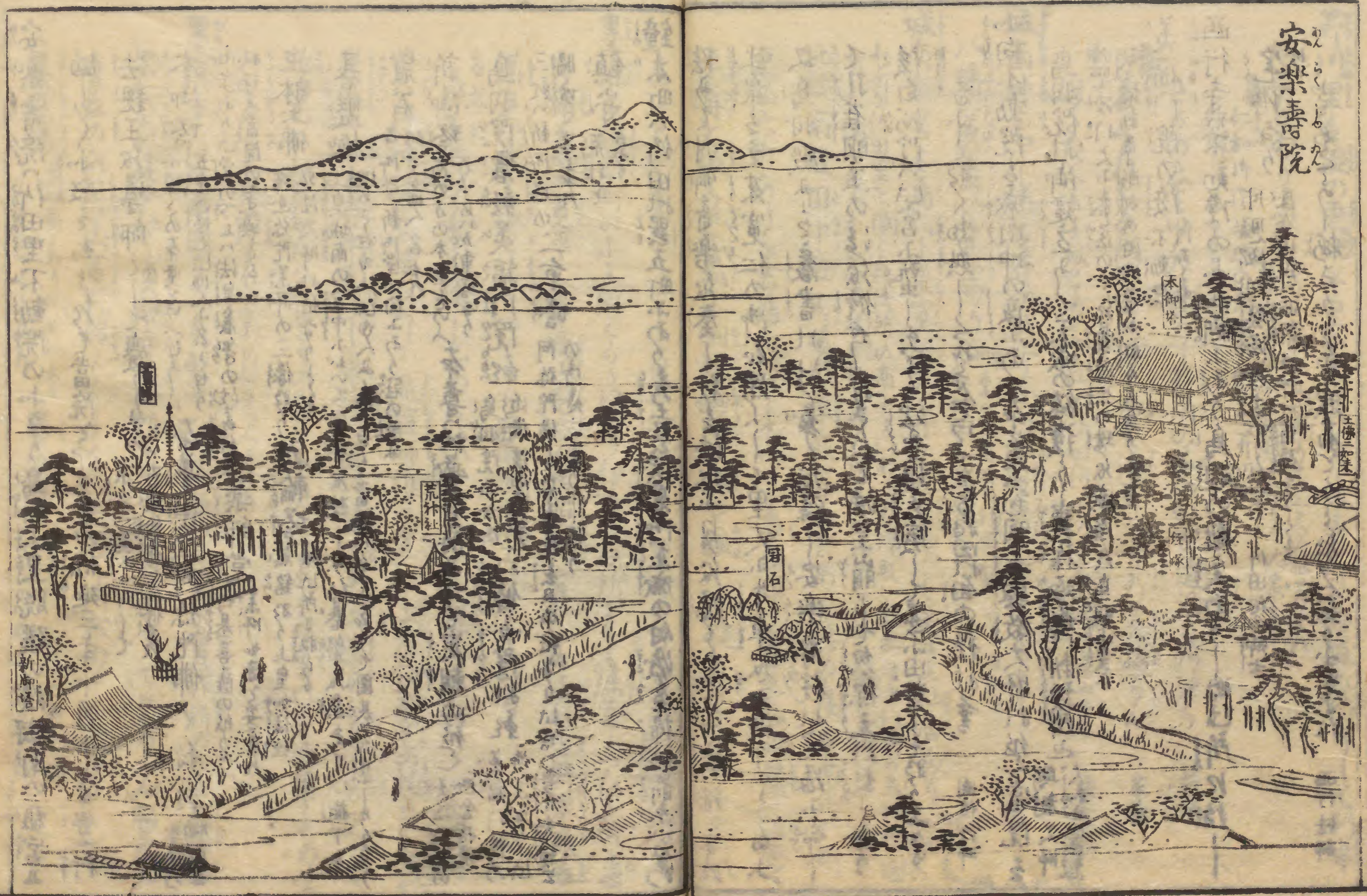
西行寺に不動院のふ西側ふあり鳥羽の離ふありり時は所に極し

宅地あり 剛豊池剎發塔廢室のふあり竹田村の卿士

折る 長谷川氏に西行法師に苗孫ありりしと

やめりり梅さうりあり我者とうとるふありりまをれ 西行法師

安樂壽院



安樂壽院の竹田里不動院の小より鳥羽上皇脱躡の後城南の離宮

はしく小殿をあらたて當院といひ保延三年十月十九日覺行

法親王孫導師として慶しめ宗旨の真言にして古義新義を以て修養

本御塔五重の塔といひゆへふ多しせり本尊は卍字阿弥陀佛と稱導師乃脚面

三躰土佛釋迦弥陀兼阿の三像なり五輪塔無銘なり上皇如法經

基盤梅上皇城南の宮中小おいて圍基を築き集えて樹下

冠石本所堂新所堂の回ふあり冠の形

新御塔南の方の本堂をいへ本尊は地藏菩薩ありて定朝の位知猛門院の所念持佛

鳥羽院震怒美福門院鳥羽院の女御八條女院美福門院乃

三條新所堂の二重塔阿弥陀佛を安置長日の位なりは塔の豊茂勢勸會

鎮守荒井と

鐘本町の竹田里巽五町ふあり秀吉公伏見御立威の討後を掃部前系公あり

といふもの小慶長九年十二月小傾城町免許ありし所なり今判經て荒廢小乃人

墨染を鐘本町の小三町とありむついは所々も漆茶とて野色

みハ橋多し寛平二年堰川を改大長昭宣公薨下り付上野本雄

傷の和ふと詠せむけりけりけり橋墨染又とあり

漆茶の形も色の橋をありけり墨染とあり

音公れ神泳み梅ちうう小飛趙師雄のをひ一人の夜の樹とて死

嵩山の松を青牛と化し康頼入道の寶物集ま茶本をうとり

物のありけり漆知れいまをとのまいる墨染は又今漆茶は墨染橋とあり

といれり其のまもありしとあり

墨染寺は所南側あり貞觀帝清和隆延のくり小寶祚祈めとあり

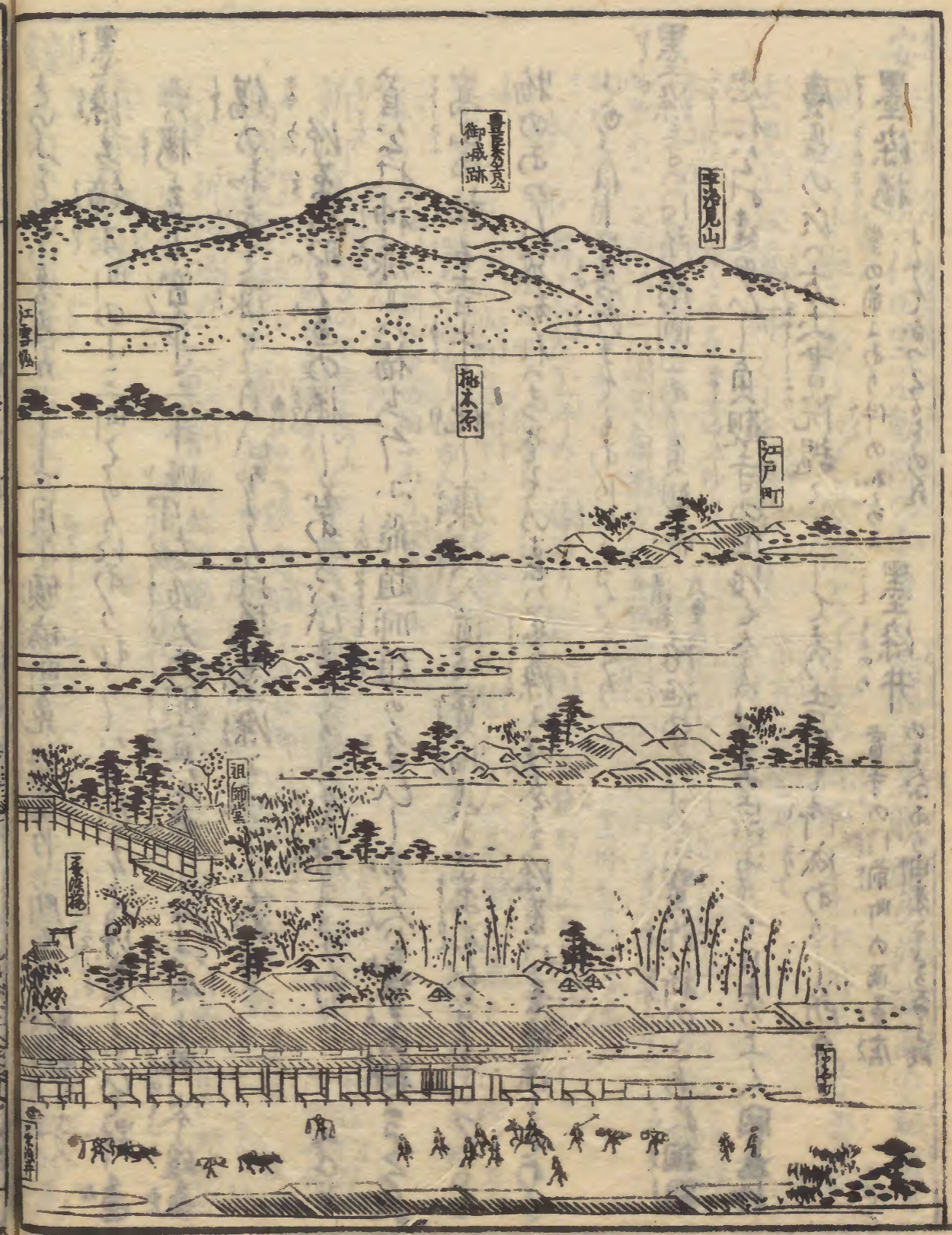
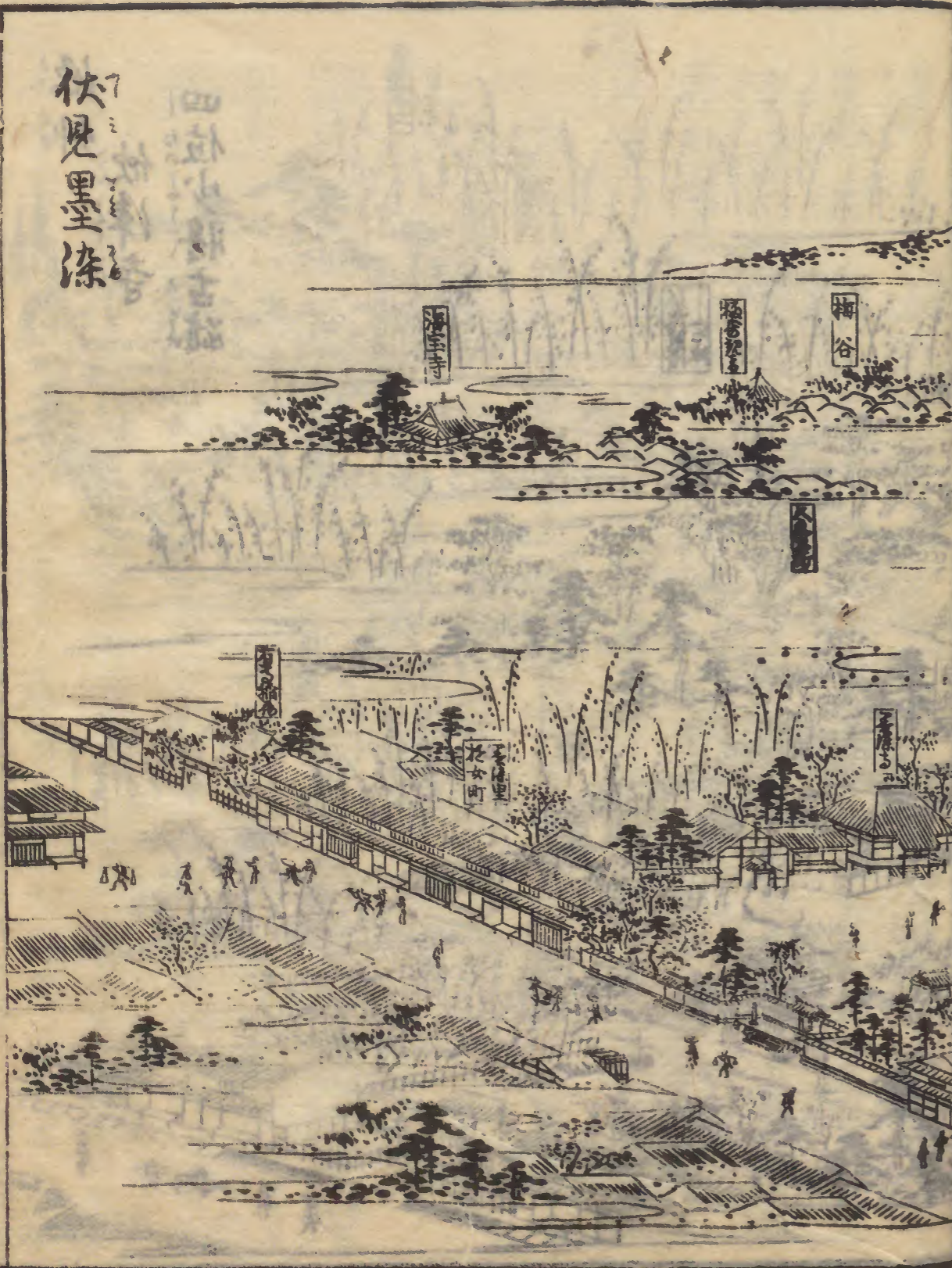
忠仁公れ建のいし貞觀寺の旧地を今は善宗ありて日秀上人因基に

慶長のい方丈書院魏とて秀吉公も御成ありし所なり

墨染橋堂の前よりあり件の和あり墨染井當寺の門前町の西茶店

ありておづくものなり

伏見墨染





彼津吉の墨染の南あり津土宗にて本尊の阿弥陀佛安置あり

聖徳太子の御代に於て此の地は少将の御所なり

弘仁三年二月十日は所より少将の塚小野小町の塚

墨染井の少将の道

伏見の城に所在ありとの道を通り

御所の竹の下の分る

竹下道

藤杜の御所の墨染北小あり本殿中央に舎人親王を

西の伊豫親王を

舎人親王を

皇帝と號す

走馬と号す

宣旨と號す

風を吹来す

のの莊と号す

旗塚

源州野の藤井森の山あり

と号す

秦の二津

後於て曹司

成連の朝觀

と号す

塚の天皇

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

と号す

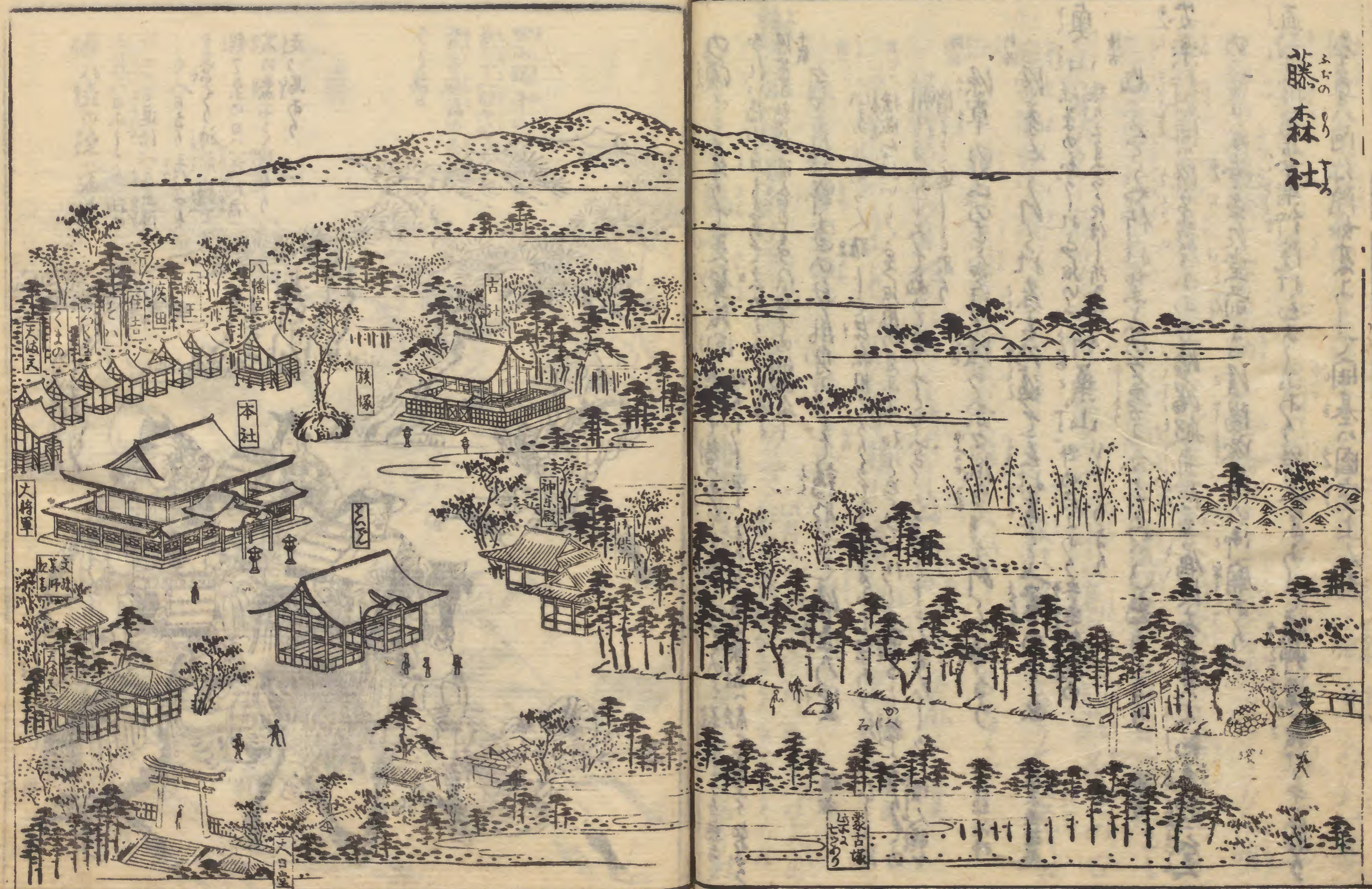
と号す

と号す

と号す

と号す

ふじの
藤森社



藤森古社
七ノ三

蘇我氏の蘇我氏ハ
五月八日ふして當社の
蘇我氏退治に為出陣
し八月三日、蘇我氏を
宮中より神前小鏡と
蘇我氏の日一、蘇我氏
蘇我氏の蘇我氏、
起り野あり



世小塚牛の佳節
武者ノ形とありハ
蒙古退治の吉節
あり





寶塔寺



元禄寺

百丈山石峰寺



深草山寶塔寺の瑞光寺の北より法華宗にして本堂山の釋迦多宝の二尊高祖

日蓮上人の像と安永の廟塔の日像上人ののり題目の石塔婆ありて下ふの

日蓮日朗の遺骨塚収むと宝塔と 日像の説法石の釋迦千財堂のゆふあり鎮

守社社の二十番神とあり七面神社を本堂の後ふあり是經宗擁護社之

鳥居の額に政上人のまゝ當寺の舊極楽ありて真言律宗兼あり

延慶年中に住職良桂律師日像上人の教はふほつて法善道場と改む

百丈山石峯禪寺の宝塔寺の山頂の茅壁の二世千呆和尚と 退院の後け

佛殿の釋迦佛額の濟世法王と左右聯あり共ふ千呆の筆と表門の額を

即非の筆ありて高着眼と書け

薬師堂の佛殿の前ふありは本尊茶師佛長閑惠心僧都れれりて多田

満仲公の念持佛の村上帝清宇天徳二年小攝州多田卿ふれりて満仲公

伽藍造営ありて沙羅連山石峰寺と號けは本尊派安永其後文永

の改兵火のうちに諸堂回祿なるにけは像塚石函小収り中ふ埋ままり

霜星累りて慶長元年の春沙羅（夜）光あり輝余は妖怪（其）の
と穿しつゝの石函（得）り蓋（沙羅）連山石峰寺（其）師（依）の銘（り）則（一）字（坂）
嘗て安んずるは八平（菴）主宗玄（の）つゝのふま中の靈（言）あり（其）近（所）所（小）
寺（坂）遷（安）世（世）普（人）民（と）化（益）せん（と）宣（宗）玄（佛）意（は）自（脊）小（肩）を（お）か
小（ち）り（五）条（つ）り（因）幡（堂）小（暫）安（奉）し（程）く（五）條（の）橋（を）若（宮）八（幡）の（を）ふ
堂（舎）と（お）り（石）安（奉）寺（と）号（以）宝（永）永（は）頃（黃）壁（千）呆（和）尚（常）小（い）ま（に）海（で）
薬師堂小尊信ありて曰我異國より日本へ渡り（其）壁（山）の祖（席）小（司）徹（と）る
事（偏）小（靈）佛（の）應（現）あり（と）厚（く）瞻（禮）恭（敬）せ（し）ん（を）忽（公）命（あり）と
今（れ）如（く）百（丈）山（と）を（お）り（た）い（尊）像（を）取（り）し（し）峰（寺）と（を）號（し）と（る）
茶（碗）子（は）潜（泉）の（鏡）と（當）寺（の）門（前）南（の）く（た）あり
即（成）就（院）と（原）草（れ）を（う）り（大）龜（谷）小（あり）を（る）阿（弥）陀（佛）の（坐）像（を）賜（壇）小（二十）
五（菩）薩（の）し（ん）惠（心）の（依）は（靈）像（の）惠（心）僧（都）獻（歡）横（川）と（お）り（説）法（の）の（小）時
そ（の）人（の）老（翁）牙（は）ら（れ）け（れ）南（伏）見（里）小（位）と（の）一（齊）と（捧）ん（奉）飯（を）と（惠）心（眞）
詞（小）應（と）伏（ん）ふ（と）指（月）の（不）り（れ）州（府）より（の）箱（立）と（佛）回（小）滑（極）樂（津）
お（の）寶（味）り（と）捧（り）六（僧）都（奇）異（の）思（ひ）を（取）り（老）翁（の）何（ん）と（向）合（て）我
佛（を）世（小）あり（唯）摩（居士）の（化）現（と）師（の）法（徳）深（感）と（あ）り（不）なる（惠）心（を）取（り）と
拜（し）其（正）眞（の）如（來）坂（拜）せん（と）坂（禪）翁（則）西（北）空（小）向（て）敬（禮）し（ん）を（忽）
信（し）て（紫）と（を）取（り）び（た）る（樂）と（共）本（主）阿（弥）陀（佛）二（五）菩（薩）定（中）小（現）れ
の（小）海（の）り（老）翁（諸）と（西）北（を）飛（去）る（信）都（感）信（の）餘（り）則（來）速（の）相（坂）自（刻）で
當（寺）の（本）を（と）り（ゆ）り壽永（の）頂（奈）須（與）一（宗）高（平）家（追）討（の）ゆり出（陣）の（時）
當（院）に詣て祈誓（し）て曰今（度）我（場）と（わ）り譽坂（海）と（ゆ）り當院（と）身（速）と（こ）
る（一）則（佛）前（の）幡（と）を（は）り西海（小）り煙の（湯）と（扇）的（的）坂（射）と（る）と（言）と
天下（に）落（し）る（本）を（る）の（擁）護（を）りと堂（舎）坂（修）造（し）願（を）成（然）の（奇）特（坂）
世（小）を（り）と（即）成（就）院（と）と（を）りづけ（たり）
那（須）與（一）宗（高）石（塔）堂（の）あり高と（を）大（計）し（て）
軒（端）梅（塔）の（の）あり由未（詳）と（る）に

詞（小）應（と）伏（ん）ふ（と）指（月）の（不）り（れ）州（府）より（の）箱（立）と（佛）回（小）滑（極）樂（津）
お（の）寶（味）り（と）捧（り）六（僧）都（奇）異（の）思（ひ）を（取）り（老）翁（の）何（ん）と（向）合（て）我
佛（を）世（小）あり（唯）摩（居士）の（化）現（と）師（の）法（徳）深（感）と（あ）り（不）なる（惠）心（を）取（り）と
拜（し）其（正）眞（の）如（來）坂（拜）せん（と）坂（禪）翁（則）西（北）空（小）向（て）敬（禮）し（ん）を（忽）
信（し）て（紫）と（を）取（り）び（た）る（樂）と（共）本（主）阿（弥）陀（佛）二（五）菩（薩）定（中）小（現）れ
の（小）海（の）り（老）翁（諸）と（西）北（を）飛（去）る（信）都（感）信（の）餘（り）則（來）速（の）相（坂）自（刻）で
當（寺）の（本）を（と）り（ゆ）り壽永（の）頂（奈）須（與）一（宗）高（平）家（追）討（の）ゆり出（陣）の（時）
當（院）に詣て祈誓（し）て曰今（度）我（場）と（わ）り譽坂（海）と（ゆ）り當院（と）身（速）と（こ）
る（一）則（佛）前（の）幡（と）を（は）り西海（小）り煙の（湯）と（扇）的（的）坂（射）と（る）と（言）と
天下（に）落（し）る（本）を（る）の（擁）護（を）りと堂（舎）坂（修）造（し）願（を）成（然）の（奇）特（坂）
世（小）を（り）と（即）成（就）院（と）と（を）りづけ（たり）
那（須）與（一）宗（高）石（塔）堂（の）あり高と（を）大（計）し（て）
軒（端）梅（塔）の（の）あり由未（詳）と（る）に



即成就院
那須與市宗高塔



大亀谷の藤の森より勸修寺に至る山林遊分ふり街道といふは所小茶店

ありて容貌艶一た女あり名とお龜と稱し自終と祈の名を呼んで大亀谷といふ

吉利俱八幡宮の勸修寺村の産沙神今板とて社頭あり今九月廿一日當社の社本三種字抄あり

勸修寺の大亀谷の良の方は所の名を勸修寺村當寺は小首の桑殿小首言と

兼より本尊の延喜帝御等身の觀世音長又八岡基を範俊僧正延喜

四年の遠立ありて本願の右大臣定方あり東大寺の寺勢ありて勸修寺

御門跡と稱し氷室池當寺の庭中

大石屋浦勸修寺より何より山科郡西の山岩屋明神は馬場先北側葎の中あり

栗栖小野の勸修寺より北花山のふりりこの村坂より

一校のりりとのの枝の花らん時ありりとも向ん大納言堀人

田村磨墓栗栖野醍醐道のむし林の中あり今は所と馬脊坂といふ

大宅寺勸修寺の北大宅村の南小あり古は所は大織冠鎌足公の居館あり今を曹洞宗

冬嗣公の所孫高花殿秋のとも小齋符ふし山科のむし馬の園とほしむいふ

の大意
ふしむいふは雨降ゆり雷なりとて今昔のいふ屋小あり十二四の女のふしむいふは
おしむいふは楓ありて乃一腰掛とてふしむいふは其後六年ありておしむいふは
とてふしむいふは前の世の契ありとて今昔のいふ屋小ありておしむいふは
る子二人誕生あり高なるをやんふとてふしむいふは西の社ふしむいふは
三糸右大臣は娘君を早多天皇位ふしむいふは女御ふしむいふは
とてふしむいふは益とて面位よりてふしむいふはの勸修寺よりりりとのの
ふしむいふは已上小世継物語

興福寺の旧迹大宅村のりりりあり旧号は山階寺といふ松乾池岩倉の社南の

小野随心院を勸修寺の東に曼荼羅寺と号し真言宗ありて岡基を仁海

僧正之法勢の小野御門跡と稱し其家北津連は信職あり岡基仁海の小野

二年六月大早は僧正小勸して神泉苑とて信雨經の法と修僧正のいふ

寂年九十二小町水内南の花の中ふありけ所は出羽郡司小野良實の地あり

栢の樹厨のありあり源茶少おけ地

深州少将の通ひ醍醐往還の西側葎の中ふあり墨原の南彼津寺れ地より小町の宅

櫻塚小野村の西ふあり野色山道の西に負塚四位あり百夜通ひ

下醍醐

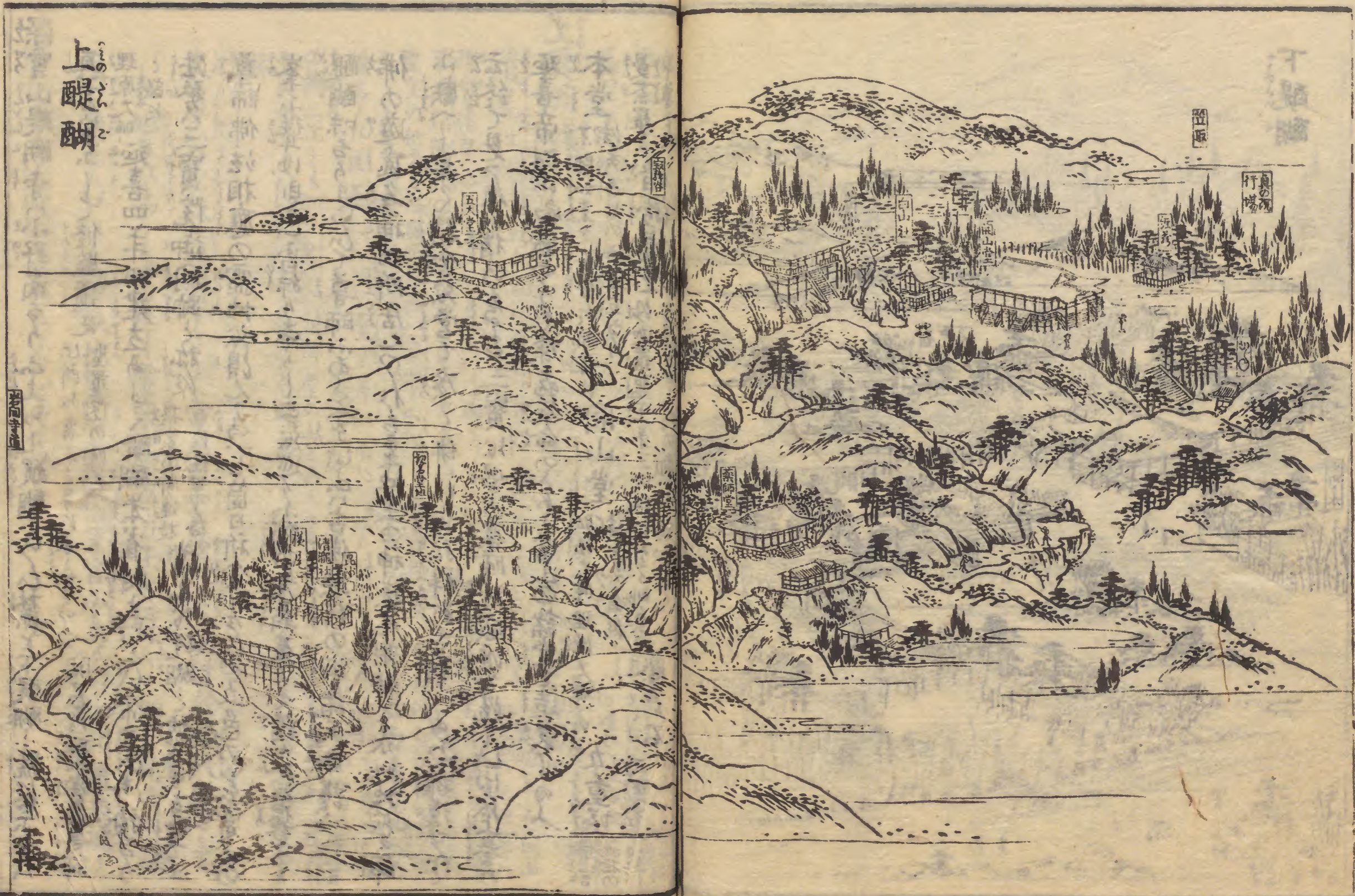


乃國 乃公 乃家

五重塔



上醍醐



一言寺



醍醐天皇陵ハ三寶院の小人家れ亦あり人皇六十代の帝御講を教は
宇多帝第一の皇子皇位二十

三三延長八年九月廿一日崩
壽四十六死喜海門と稱は

朱雀天皇陵を日所陵町あり醍醐帝の皇子ありて二代の主上あり
皇位二十六年天曆六年八月十五日崩ト云

聖壽三十二歳
天曆海門と稱は

一言寺る醍醐の南里小あり真言宗あり本尊を千手観音ありて
醍醐寺に属は

安阿弥の他之内侍堂より當寺の本願阿弥内侍の像を安んじ
信西の

直谷南禅院を醍醐山の巽小あり成賢僧正依道の地有り本を阿弥院
佛の坐像ありて表日の化有り側は地藏尊を安んじ

多くは阿弥植を種とせ
世人田植の地藏一號と

笠取山 醍醐のふくあり民村多し巽の峰ふ城近の園場あり
岩田寺ハ醍醐のふくあり民村多し巽の峰ふ城近の園場あり

日本より初めのたぐもあゆみ人村雨ふれぬ笠取の山 西行

笠取のふかたのみしういもくぬふ神をぬりてせり 頼基

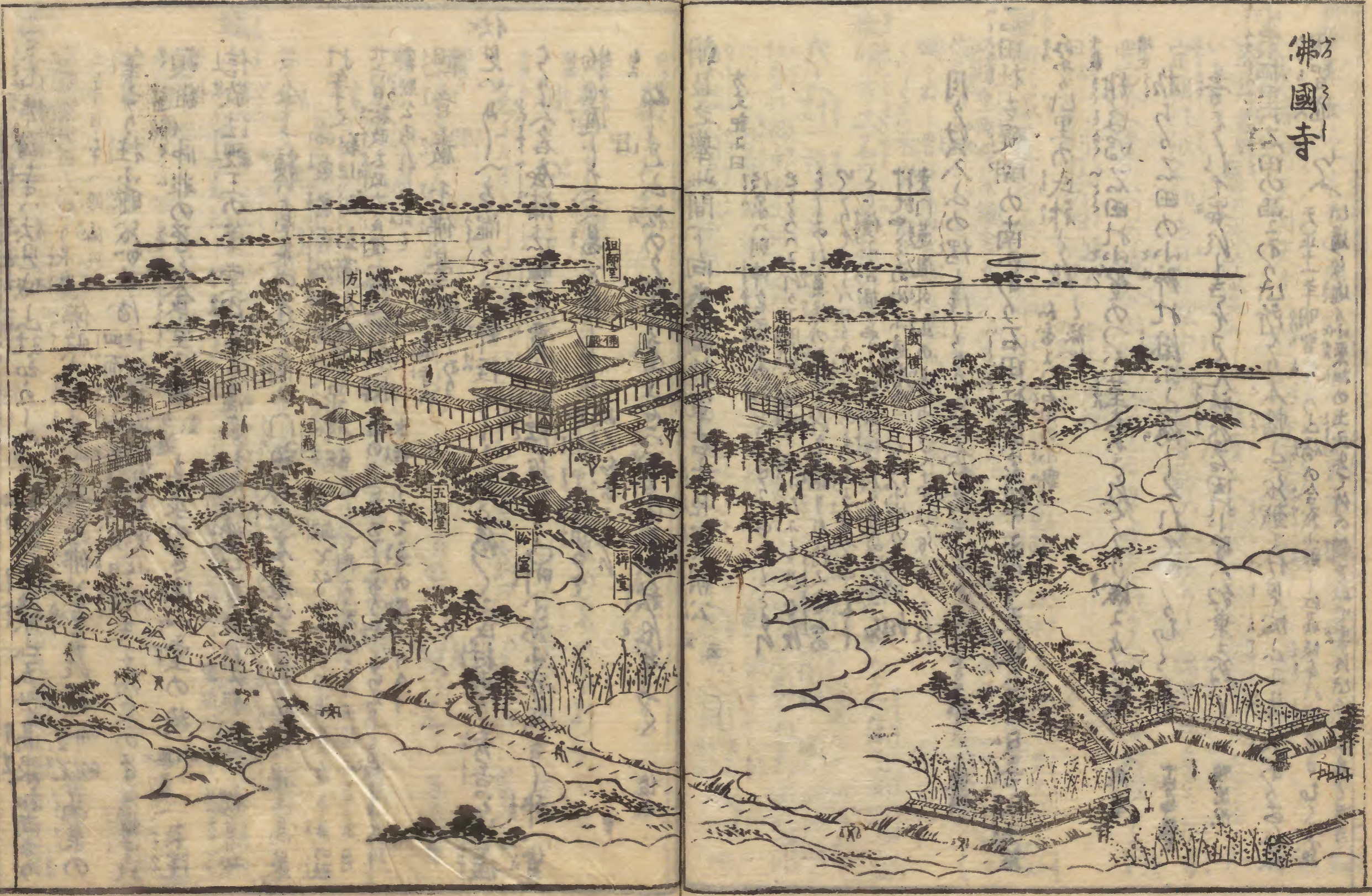
頼基

頼基

日野
薬師



佛國寺



Handwritten text in the upper left section of the left page, including the characters '方丈' (Hozon).

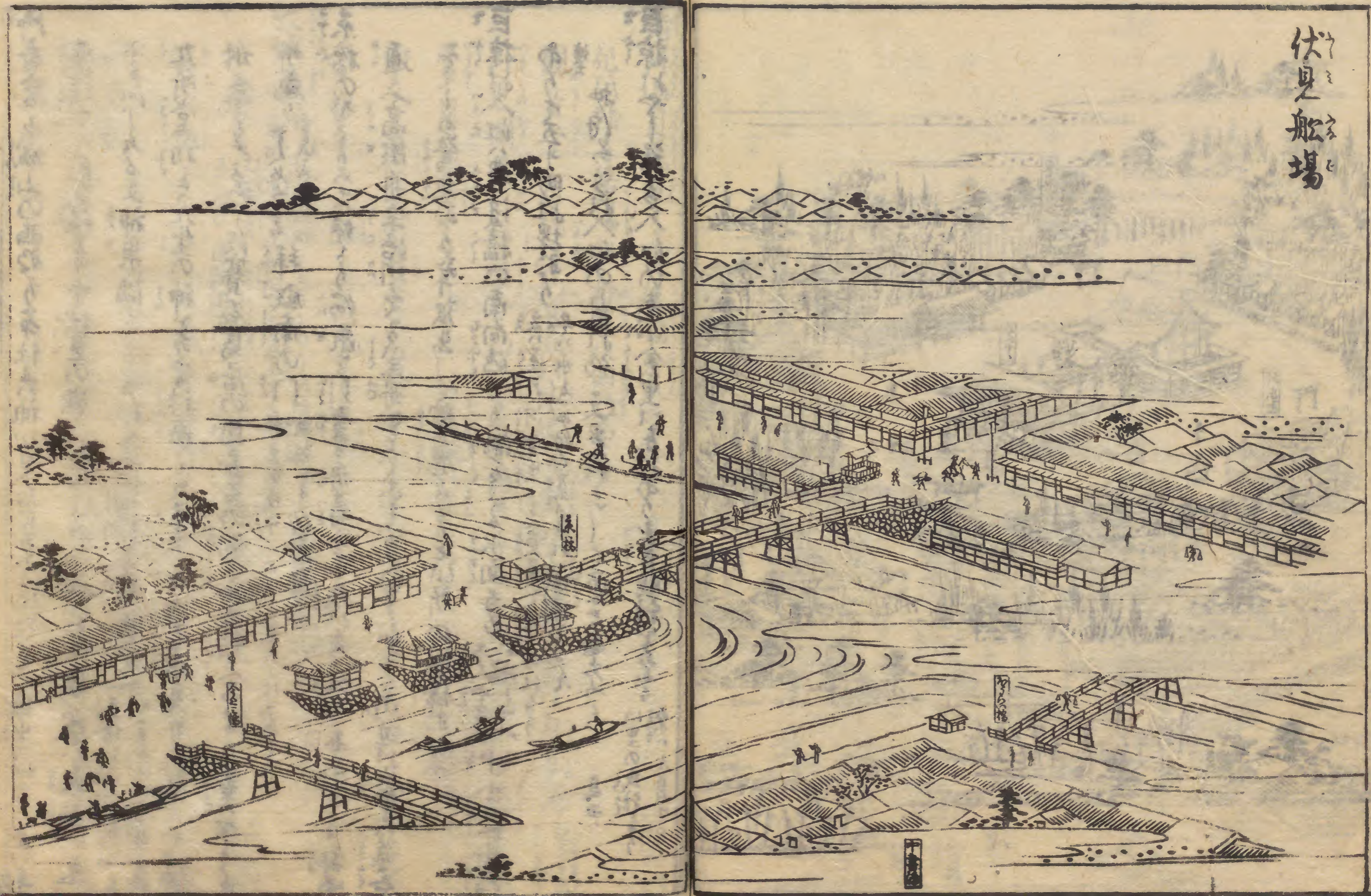
Handwritten text in the upper right section of the right page, including the characters '佛國寺' (Hieizan-ji).



御香宮



伏見船場



所香宮之城山の西なり本社其神功皇后成あり此地所鎮坐はるる

歴詳かた文禄年中伏見の城いりてはるる所なり

九所堂初と九坐の神とあり社遷り九基あり所香水鳥井は

水よりと名は實石鳥居の地なるの向ふあり諸人より實

所なり豊後南の門伏見の城中あり敗知等花更なり

系橋のなりと大坂より河原と引堂舟着て夜舟益のあり都

通高瀬舟宇治川をる末舟とらむどりての川辺は家

をともめ驚忽なり舟渡して饗應なりとは所の風儀なり

巨掠れ入江豊後橋の南向橋より渺々水面あり土人小余の中久和街乃

ありて五十町は堤あり冬蓮花河骨生して炎暑を避るのはなり

巨掠れやれ入江の月れり又光れりて螢と金をり

巨掠れやれ入江の南小余里に東にあり春日明神とあり

指月山月橋院を豊後橋小川の東あり昆池門天と安をり

化は地を洛陽般舟院北旧あり

観立堂月橋院の西丘上あり聖観音安をり月見心

月見園指月の傍にあり一名宇治見とあり余吉は所は樓臺

嘗て月夜賞し人ははるる姑獲城は宴たけりなりし鶴鳴

むり寂然と銅雀堂小舞りありとも雨志げりて今は

むらむらしく照してむり小変らる

六地藏 指月の東八町ありは所のなりハ醍醐街道西に伏見

地藏堂 大石寺にありは降土あり本尊地藏菩薩ハ仁壽二年

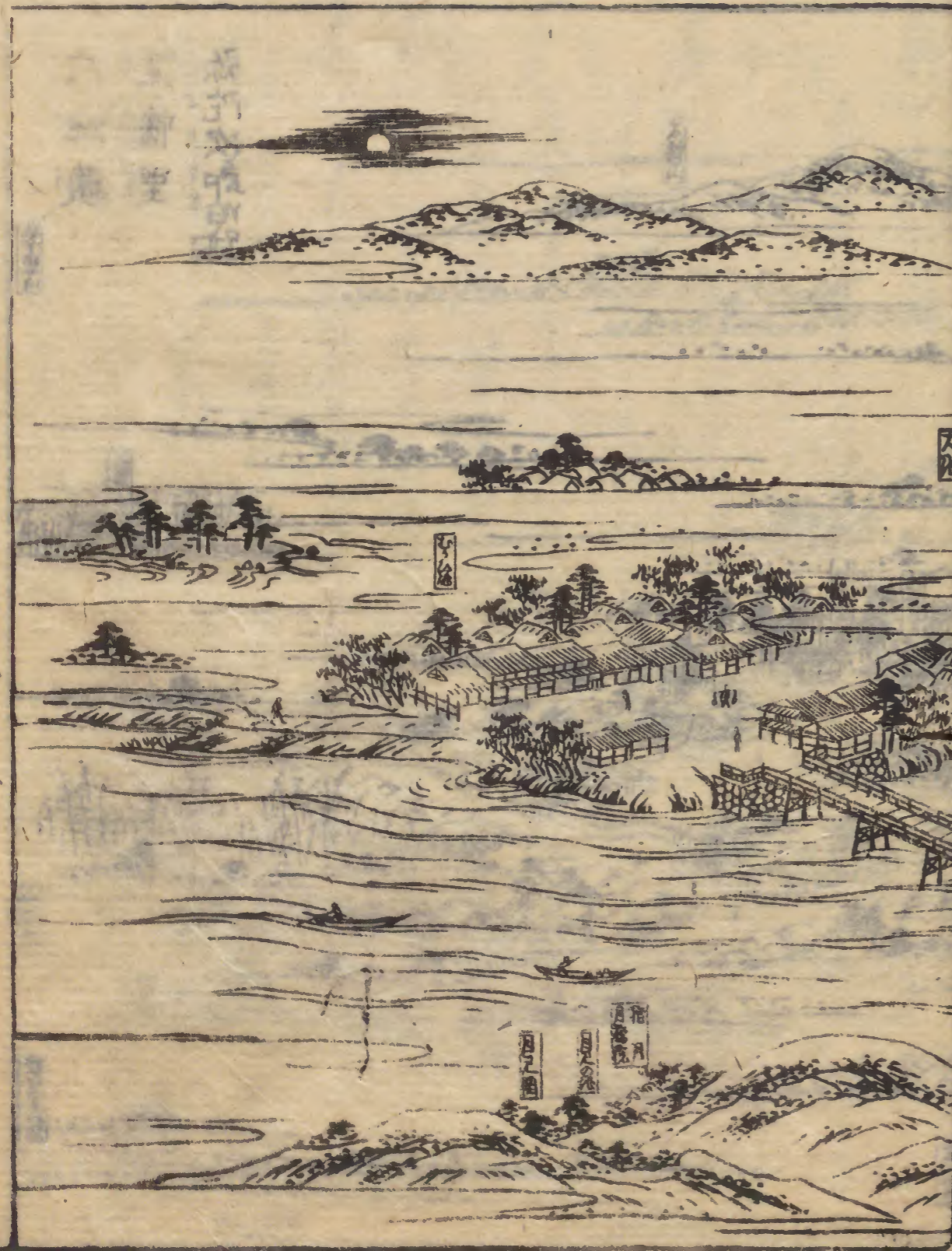
冥土に願は身は地藏尊に拜し種て後一本取て六鉢は地藏

ともこのふ苗より安をり保元年中平清盛西光法師

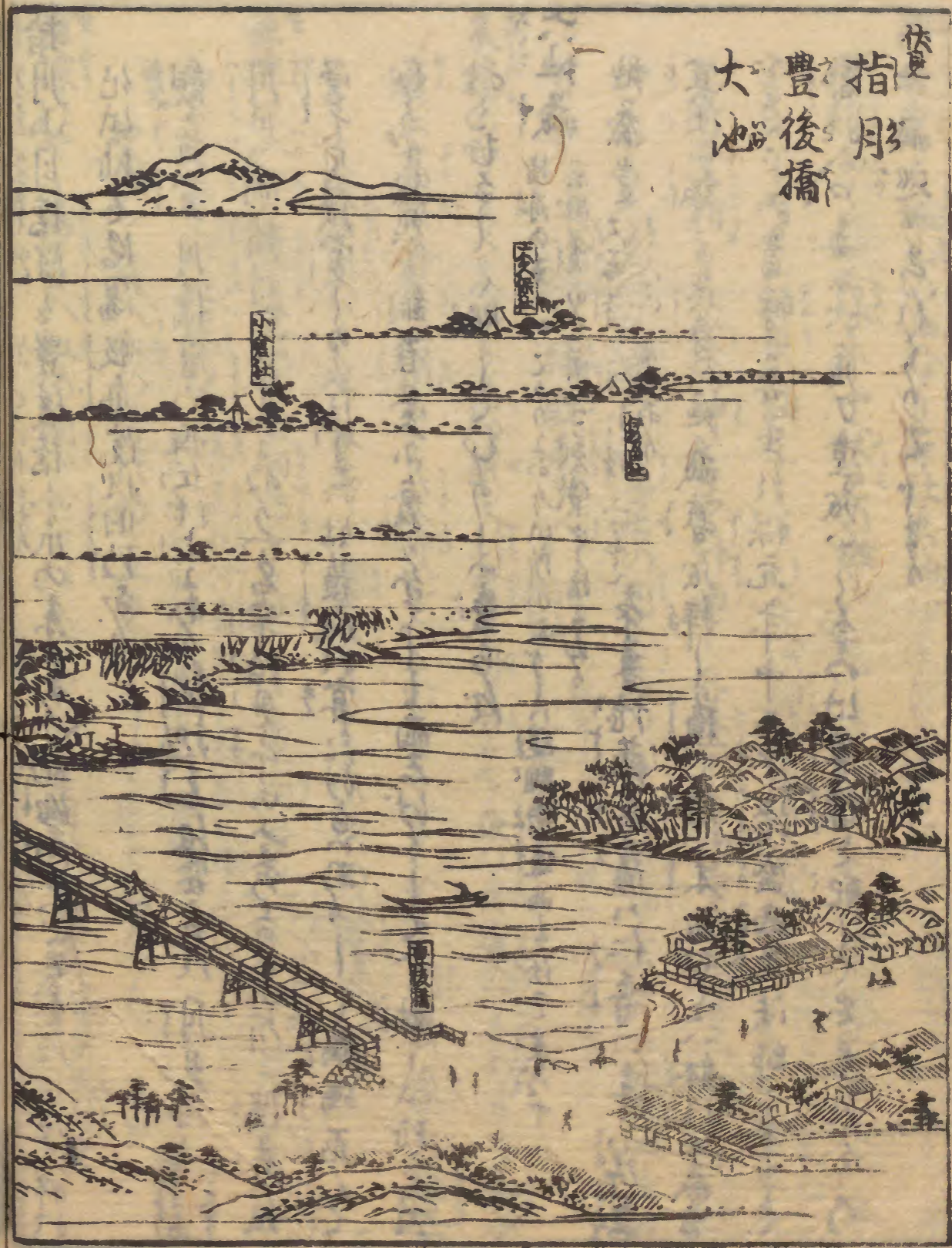
都に入口毎五六角の堂なりともは尊像と配して安をり

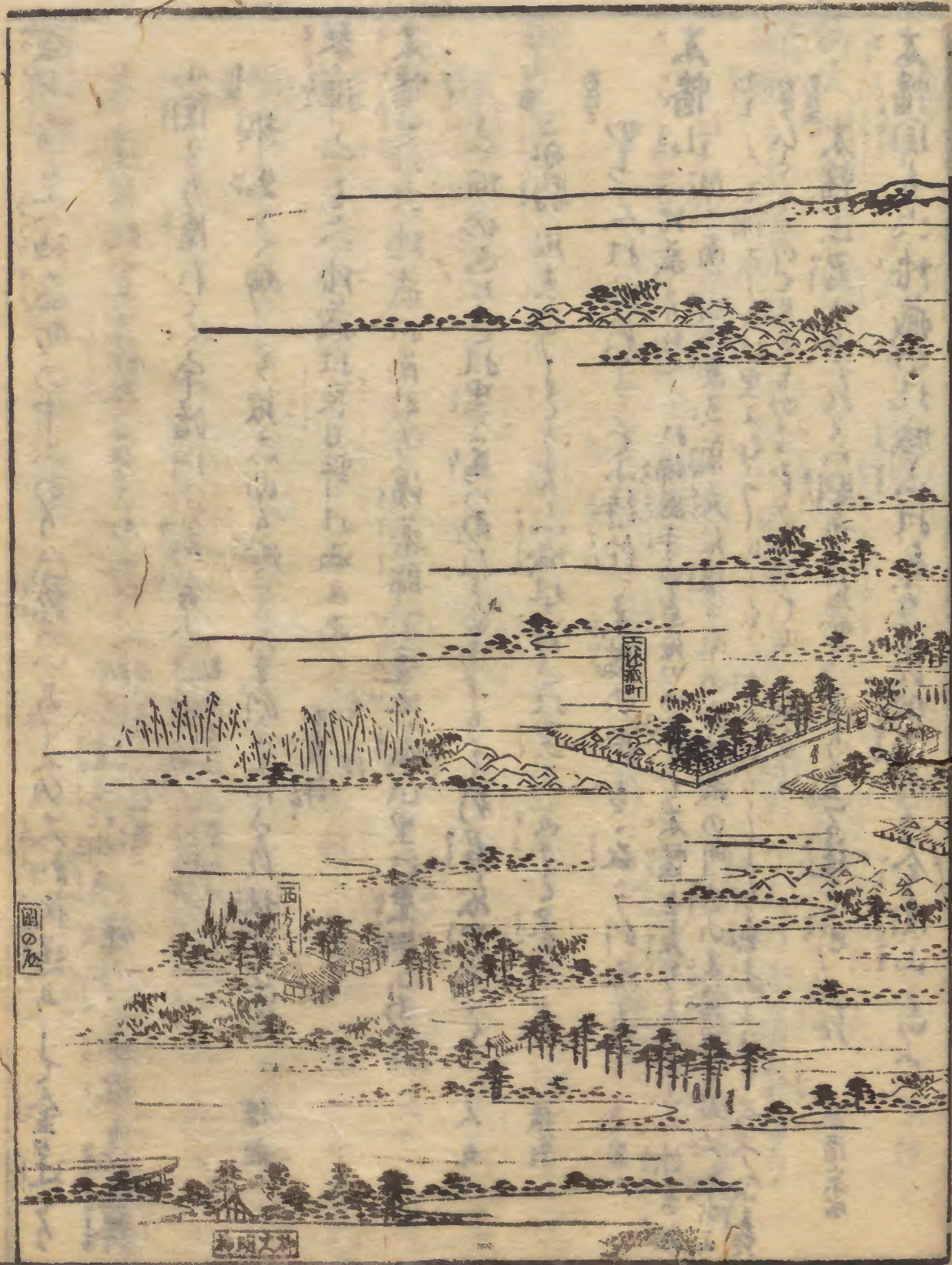
地藏巡りまれりて

地蔵巡りまれりて



依
指 月
豐 後
大 池 橋





園の左

西之門

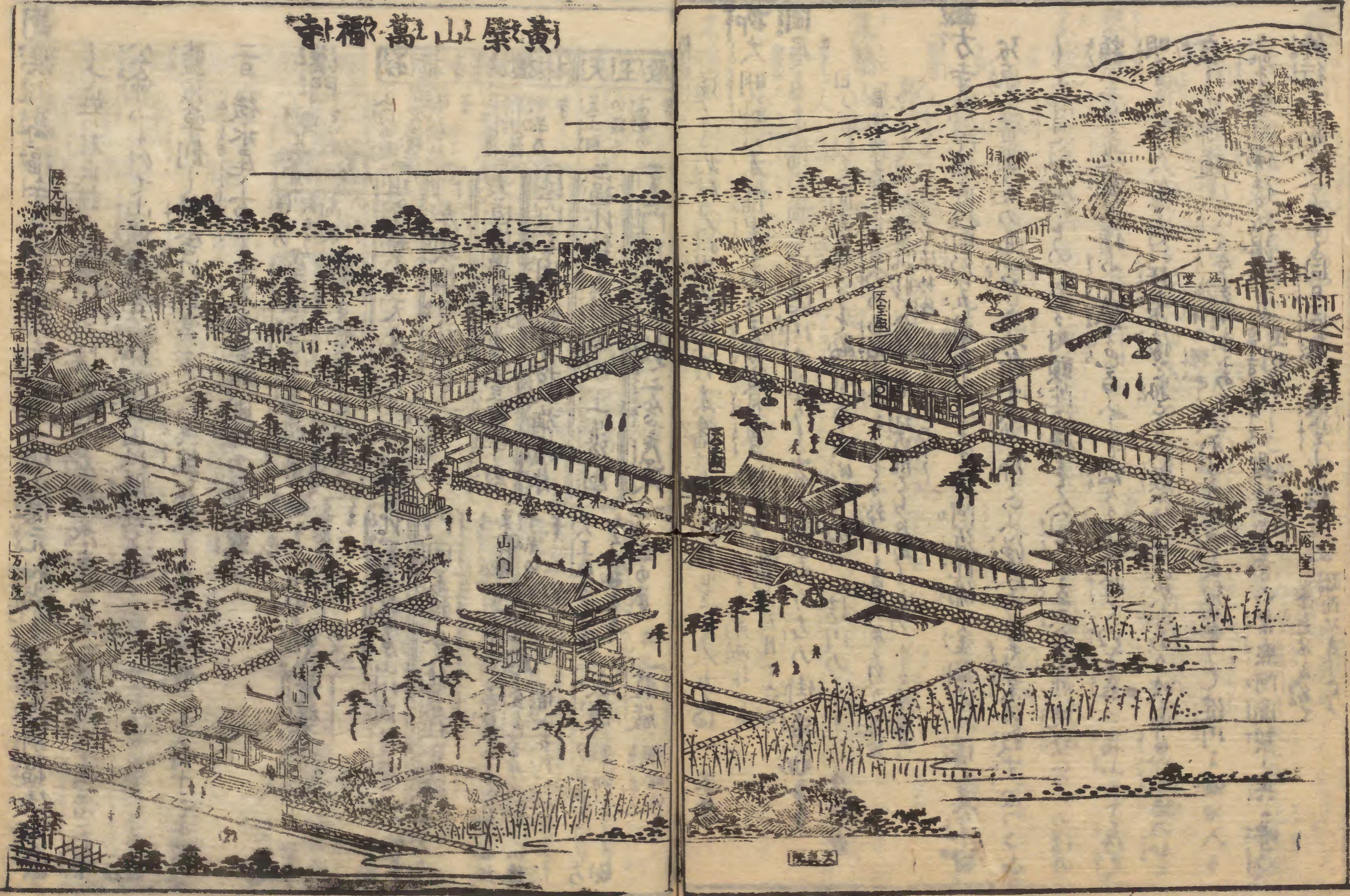


六地藏
本幡里
弥陀次郎泊跡

本幡山

徳寺

黃檗山萬福寺



蜀樂山萬福寺の五箇庄に南ふあり岡山隱元和尚大明福別福清の令
一姓ハ林氏諱ハ隆琦字ハ隱元あり本朝承應三年小東渡一萬治二年
公命ふりて山城國宇治郡大和田に勝地を賜ふ寛文元年九月より依
藍衣草創し精舎を經營多くハ異風を摸し名ヲ黃檗とす百十二年四月
二日後水尾上皇より大光普照國師の號を賜ふ

漢門 義一 宗經 聖主賢臣 仰芳
義一 漢門の義一 高泉の義一
宗經 漢門の宗經 高泉の宗經
聖主賢臣 漢門の聖主賢臣 高泉の聖主賢臣
仰芳 漢門の仰芳 高泉の仰芳

祖奉繁興天慶大 門在顯煥日精華
祖奉繁興天慶大 漢門の祖奉繁興天慶大 高泉の祖奉繁興天慶大
門在顯煥日精華 漢門の門在顯煥日精華 高泉の門在顯煥日精華

大道設遮欄進歩直登兜率殿 法門在内外觀身投入檀林
大道設遮欄進歩直登兜率殿 漢門の大道設遮欄進歩直登兜率殿 高泉の大道設遮欄進歩直登兜率殿
法門在内外觀身投入檀林 漢門の法門在内外觀身投入檀林 高泉の法門在内外觀身投入檀林

福地鍾靈特感四王護國 慈門現瑞大救之念久入
福地鍾靈特感四王護國 漢門の福地鍾靈特感四王護國 高泉の福地鍾靈特感四王護國
慈門現瑞大救之念久入 漢門の慈門現瑞大救之念久入 高泉の慈門現瑞大救之念久入

天王殿 威德 莊嚴
天王殿 漢門の天王殿 高泉の天王殿
威德 漢門の威德 高泉の威德
莊嚴 漢門の莊嚴 高泉の莊嚴

大雄寶殿 寶殿
大雄寶殿 漢門の大雄寶殿 高泉の大雄寶殿
寶殿 漢門の寶殿 高泉の寶殿

紅牡丹山設長生之畫 威德殿
紅牡丹山設長生之畫 漢門の紅牡丹山設長生之畫 高泉の紅牡丹山設長生之畫
威德殿 漢門の威德殿 高泉の威德殿

大雄寶殿 寶殿
大雄寶殿 漢門の大雄寶殿 高泉の大雄寶殿
寶殿 漢門の寶殿 高泉の寶殿

加藍堂 食堂
加藍堂 漢門の加藍堂 高泉の加藍堂
食堂 漢門の食堂 高泉の食堂

天開壽藏 地湧松園不老春
天開壽藏 漢門の天開壽藏 高泉の天開壽藏
地湧松園不老春 漢門の地湧松園不老春 高泉の地湧松園不老春

舍利殿 壽藏
舍利殿 漢門の舍利殿 高泉の舍利殿
壽藏 漢門の壽藏 高泉の壽藏

開山堂 通山 壽藏
開山堂 漢門の開山堂 高泉の開山堂
通山 漢門の通山 高泉の通山
壽藏 漢門の壽藏 高泉の壽藏

華嚴室 釋迦佛のまはる 節竿旗 大雄聖殿のちまき 糸松園 當山の茶屋所 妙高峰 妙高山の

明星山ニ室戸寺と芙蓉の南大鳳寺のむくありを尊子に記す八圓像

檀金の立像あり長八寸五分之宇治山の赤石瀨にありて出たのれ所

光仁天皇の所奉願ありて智證大師の用基之中真隆明法師

宇治山と二室戸山の南之喜撰法師は所不伝ぬいしとるん

續 法眼を くら山のむくは房のせとわかれとるん

宇治山に紅葉とてこころは月のはり白きとるん

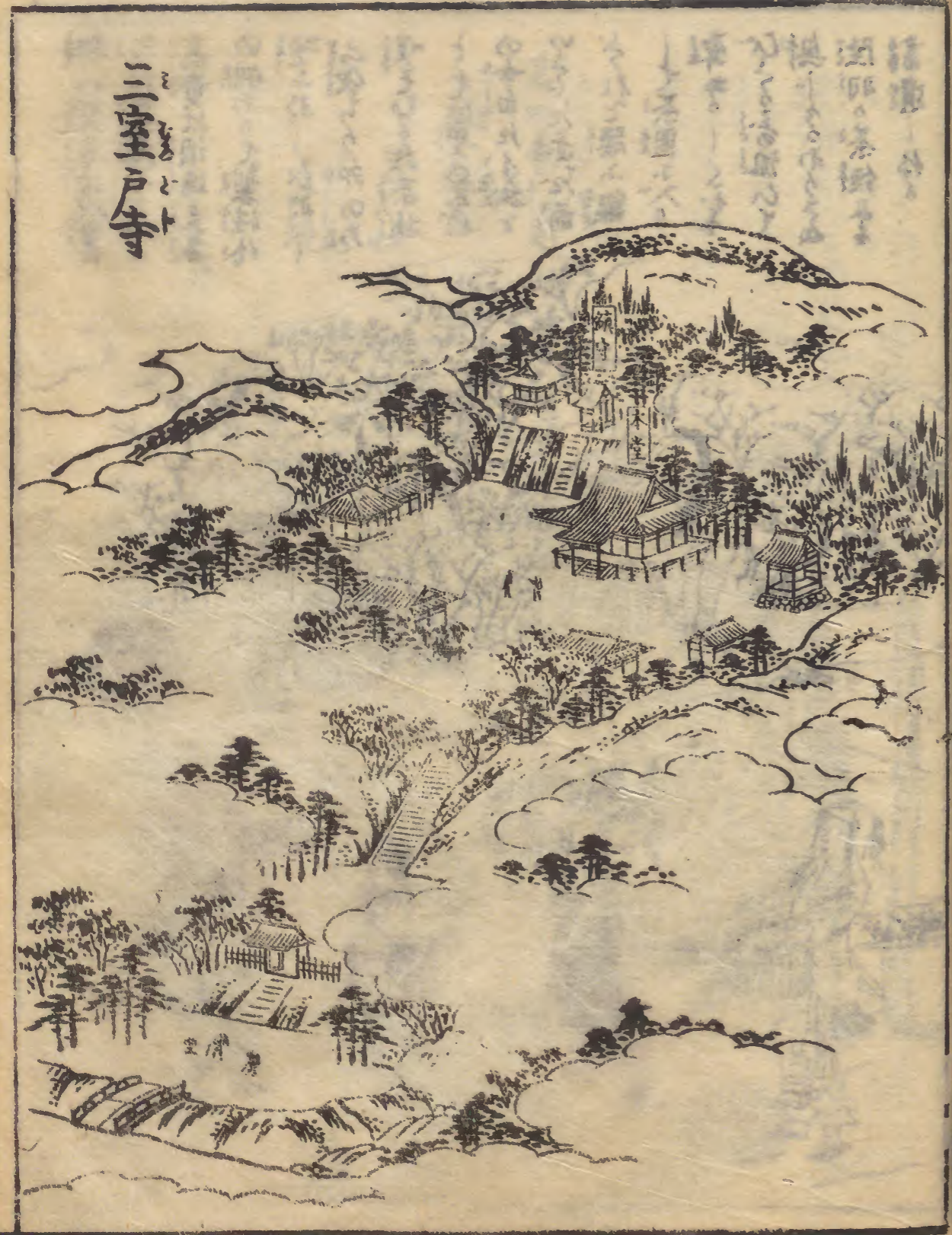
喜撰殿を二室戸より一里とりの巽ありて櫛川村のふとありて石堀

ありとるわね喜撰洞といひ絶頂より喜撰法師をふとありて登天

しの人とせ 阿の井姓抄に喜撰の伝家とて室のふくわたりといひ長明と名おし

灰はるくれと堂の礎とてとるん 室のふくわたりといひ長明と名おし

の序に宇治山の傍にせんいしとるん 室のふくわたりといひ長明と名おし



二室戸寺

都の異字はこれ
 茶は名産なり
 高貴に調進未だ
 の例ありて製法は
 遠くはびねく
 遠くはびねく
 とくは里のあけ
 の女白んを採て
 つて赤た前
 ぐれと腰小籠
 して茶園に入り
 採りしくを
 ひくを流して
 奥にるありて
 陸羽の茶經にも
 書遺り



本のくわくく

茶の摘り

きくわ

子規

くわ





宇治
興聖寺
惠心院
離宮
八幡

櫻井堂
朝日山

甲子を瀛くで血を紅く成るを離食して死す其の悪霊とせり其の祟り
離宮明神と崇め後空泉院の所宇
俗暦二年十月七日正之住をさうけり

朝日山を離宮の後山なり鬼道尊陵朝日観音

朝日山に於てけり其のきり八十九人ものくを攝り

朝日山を離宮の後山なり鬼道尊陵朝日観音

朝日山惠心院の離宮に南ふあり真言宗にて同基を惠心傍都に奉尊二日如來の

弘法大師の化某師堂に像あり他は惠心僧都七十六人の像堂内安多

本堂の額持明院基時卿の著用基源信傍都に和別葛本郡の人

して姓を清系氏之叔山善法師みは久に於て教とよくさしり一書要

訣往生要集阿弥陀經疏之兼對俱舍抄目明相違を著し惠心院の

僧都とあり大唐南湖知禮法師の同書法にありける大に感歎し答

釋はくして五つる寛仁元年六月日徒身返ありてくるを付生の

初これに教の疑はるる平七とそあく水定をかき其後備張

さの上足慶祐法師き人張とめて其は後をいけふくは其七十六

又天樂空ふもた奇香よらぬに中州本をくく西をびきり

趙宋皇帝僧都れ道譽をきて塔窟に建た像と重しめゆりて

戒ふも山の極ふもなるもなるも皆むりてん僧都源信

佛徳山興聖禪寺の惠心院の南に隣る曹洞宗ありて同基の道え和尚之佛殿

又釋迦佛と安多に額興聖寶普蓮院尊純法親王の著當寺い

源州里あり今源州の南に佛寺正保年中万安和尚中興して諸堂を定

城主永井直政に建たりりるるに琴坂といはれたる極に築き

と成と透垣と竹の石を中より白楨と建てた虎とけり娘躰濁

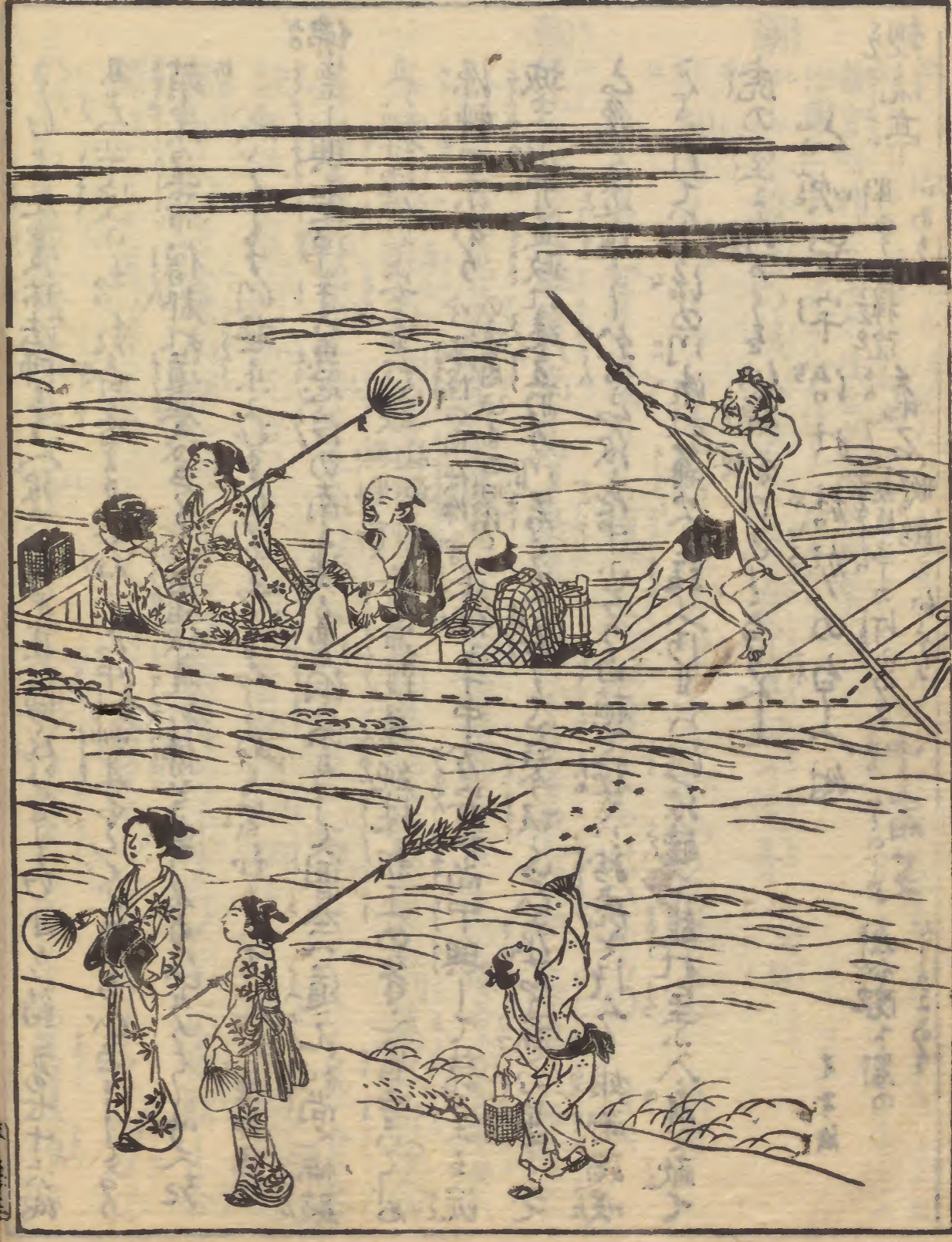
又これに宇治の川原に無火と銘ありは石を聽て龍に室ふ入を敵て

虎の堂よりい禪刹のさくさく

吹や宇治に焙炉の白入付

観流亭 岸の山に禪院 龜石 中宿芝

家集
 鳥羽の
 水面今ふ
 江上野舞
 とつたの城
 よたつ
 うさわ
 くれ
 雲の
 ぬれ
 志々孫
 玉江の
 芦れ
 みぬ葉と
 ろこ
 源三位於政



植嶋を千石橋より乾八町とくり小あり

宇治橋より豊後宮まで九十五町の堤あり
名は植嶋と云ふは同く植嶋目原上流下流

舟の底に二上流より其壁の

金兼

宇治河の川床もたぬ名は芳小橋の為人舟よと云あり

基光

河風れ夜をのちうらさむ月をあらはれ桂乃為人

基道

橋娘は一海宇治橋の西は光あり

今礎存せり

基

此方の評説とて多神とて中中抄は信吉大の神橋娘の神小か

漢舎

泳み入るるを捕れ説みいふ所の神は橋の神と佐保娘の

田娘をよほ一旧妻は橋娘をよほとて一系神肉の神は離宮の神夜

毎小通ひのくを曉毎よあひくはのくをあらとておん玄惠法平の目

嵯峨天皇の所をたかたにたかたある女貴妃のや一海を夜世の時系りくは

河は髪とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

かかか妻とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

よとてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

なりはかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

遙院殿の所説も清輔宗祇のい所よ一佐保娘龍田娘橋娘をね取之取

とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

新 河本よとてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

新 橋娘とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

新 浮舟を橋より武西とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

新 鶴飼瀬を浮舟橋より武西とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

新 植尾を橋より南とて北とてかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

新 土人丸山

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて

あかかか鬼と化をされとて橋娘とて宗祇の説をよとて



此の景色



平等院

河風小

の後に

月の

光を

八十

人も

衣

あり

定家

侍中群要小の城國
 空津の御網代より
 日毎小鮎魚と進る
 ころんけし今も
 いかにくしてはけの
 けハ鮎魚と平寄
 院より十町より
 門上桂川のつもの
 やりりて今も
 の肩より居る
 早水とせり
 坂より興と封
 した李白の詩は
 疑戸候と暮と
 くるはくの
 換るはくの



又氷魚ととく
 毎年九月より
 十二月まであはれと
 鮎魚と花鳥餘
 樹小つとより
 松邊
 ぬ
 舟
 うら川の
 網代本
 ねの
 ひとも
 つて
 後人より



宇治田原名村
煮栗焼栗林



縣の社々平等院の後西門北の傍あり所ハ方削道鏡の靈ありと云後ハ

宇治の悪九府と云ふも信西を師として常ニ學志あり仁義禮智信と正しく賞

勲功と擲政勢なきりとして上下の仰慕を五月八日夜社興一基あり

金名院白山権現と白川村あり平等院より十八町南あり因基を昭澄上人の里を海林

と云ふを九月十八日

宇治田原の平等院より凡五十町南ありと云宇治川右を山嶽嶽々あり

嶮しくまねに栗子山越と云近半里をゆくた岸よりを山嶽嶽々あり

また舟より新運送は果より田原郷まで四面みかふとして中ノ敷村あり

南と牛馬の付未自中より卿口より山の方郷中の入口あり

大宮明神の郷口の良ありと云郷内は産少社九月九日社興一基あり

田原親王の済廟の大宮北南あり光仁帝の済又して施基を子と号し

猿丸をまの旧の田原郷律定寺村のをり奥山田小あり此地山嶽嶽々あり

近の園傍ありとい別戸塚村ハ出りまをれ猿丸時より大方大記の栗林のふと云り

栗原焼栗林の田原郷内名村ありといり海見系天を二世學を成避て吉野より

居りり大友皇子疑を成獲く龍皇の天皇よりと云ふは所よりあり

里人怪みたりといけり見たりと云櫻を成獲たりと云上りり天皇

さしはるるいして我ありといり生るる成獲たりと云行ふと云理あり

不思議といふなり成獲たりと云大友皇子を成獲たりと云合我小敗し

自害ありありといり

よめて吉野王子位即あり天武天皇を稱は栗樹成獲たり九方四町の栗林

と云るありと云栗林と云焼くも如く成獲たりと云栗林今にせり

天皇寶祚と経の全瑞ありと云今海峯林重裏頁上り

八幡宮と栗林の東あり田原郷中一の宮と云はけるの天武天皇社

信西塚大道寺村道の傍ありは所より勢山に至りあり相言信西八道と云

道の前と相入り行合ふ信西成獲たりと云日清なるは清道の入り

大道寺田原と大道寺村あり今草堂と云はるる

鷲峯山金胎寺



空録峯
聖堂の
拜所



就鳥峯山金胎寺を和束卿内系山村の巖ふわり 宇治田系卿より一里半入道寺あり 武

天皇の所宇白鳳四年九月七日優婆塞いふより天皇の靈柩をいふより

ハの嶺ハ八葉蓮華の表一釋迦嶽阿弥陀嶽弥勒嶽寶生嶽何閼嶽

虚空藏嶽不空嶽妓樂嶽と號一巖頭ふ坐して修法と云ふより五七日あり

是當山の用基 後世より今て是嶽一寺 役芳乃依慕して登山し七堂伽藍を造営し

宗旨の真言より本堂を弥勒佛と尊尊し 行基の多寶塔の心愛護の王派の安

至ん 伏見院の清達より行基の附 用山堂自他役行者像を安置し

社 當山の鎮守也 鎮守石あり日本金柱福滿推現八幡宮金剛童子と勅修し空鉢峯ハ

當山の絶頂あり寶篋印塔と違ふ是北斗星に所奉る泰澄法師の所奉るを修

法の耐石上坐しるより虚空を鉢と投らるに空鉢雲中へ飛龍の末裔と云ふに

歸る泰澄入寂の後鉢をいづに埋て空鉢峰と云ふに 地のまゝの所

當山東北山脈を役行者泰澄の二師密法修行の靈嶽と云ふ 和州金峯山と云ふと

行場と云ふ 比多輪東觀行道石千手遊の形と五光遊の形と

巖と傳く 降三世龍 鐘懸 胎内潜 壹岩

仙人窟 石塔岩 舍利石 佛岩 水晶山 熊倉

黑白岩 安住岩 天狗岩 龜石 兜率灘 花瀧

加持水 馬足洗水 養生堂 弘安元年九月後醍醐天皇 安置の

折此 此の嶺の高くして水の方へ帝冠繞圍れし

中 比叡愛宕の山嶺高く聳右の方へ琵琶湖の漫々たる水面

雲 連りて三上嶺の翠巒を相鮮りて千のくくを志貴生

駒 金剛山茶天めを西海の海原兵庫の洲崎浅海に山見え

あ のしる摩耶六甲山の高根も只け山嶺より一眼の中へ遮りて雙眸

の 客と形りぬ衆山より秀て巖頭嶮々として樵夫も歩み

老 杉繁茂しるる白日照埋んと圍り李白が大塊の吟ふ五嶽と云

一 天台の四萬八千丈もさうに相對と云



文殊石

百丈石



百丈山大智寺

佛殿

百丈山大智寺と和東郷湯舟は奥小杉村あり

鷲峰山の麓にありと傳口ありと由伝説あり

和州安倍文殊尊信

系清は志願を企て湯舟村にありては抽本の尊君

家に入て茶飯喫して憩ふ所の曰當山よ水の佳境ありと告る師則栢

實(斗)は推つてのよま登り巖上は坐禪する事一千日あり向う側は巖二

うけて文殊菩薩出現し空中に在ると暫く去師大歡喜して石頭

と下り猿梯のよまは道は時終て茶飯せり事數千年して林とあり今

小杉村の極本系ありて其後い所之宇は建立して文殊の像は安

百丈山大智寺と號と本願とよま名伯耆守あり

大觀禪師と獨小才二世ハ大接禪師又中興如雪文藏

和尚と東福門院淨深依ありて佛殿再建して

佛殿の本尊釋迦佛と安阿弥の位あり方丈は文殊の像あり後水産院の牌妻

坐禪石 方丈の庭に十所あり高き三十四間横幅二十間頂上の平方十間あり

文殊岩 岩面劈りつれて文殊大師布引石 岩面白く布と大鼓岩

久世鷲坂 宇治田原の西とい所といふ一の太和街道よりて久世村まで

白鳥は鷲坂との松りけおとてゆるる夜も交りたり 人唐

今日とみるは鷲坂との白鳥は佐保姫漆油一々

推尾山光明寺と長池の南親善村あり事十一面觀世音の基大士の位と

由具社ハ觀音堂の南よりて東の山本ありある所ハ高倉宮ハ清由

玉水里ハ長池の南一里余あり

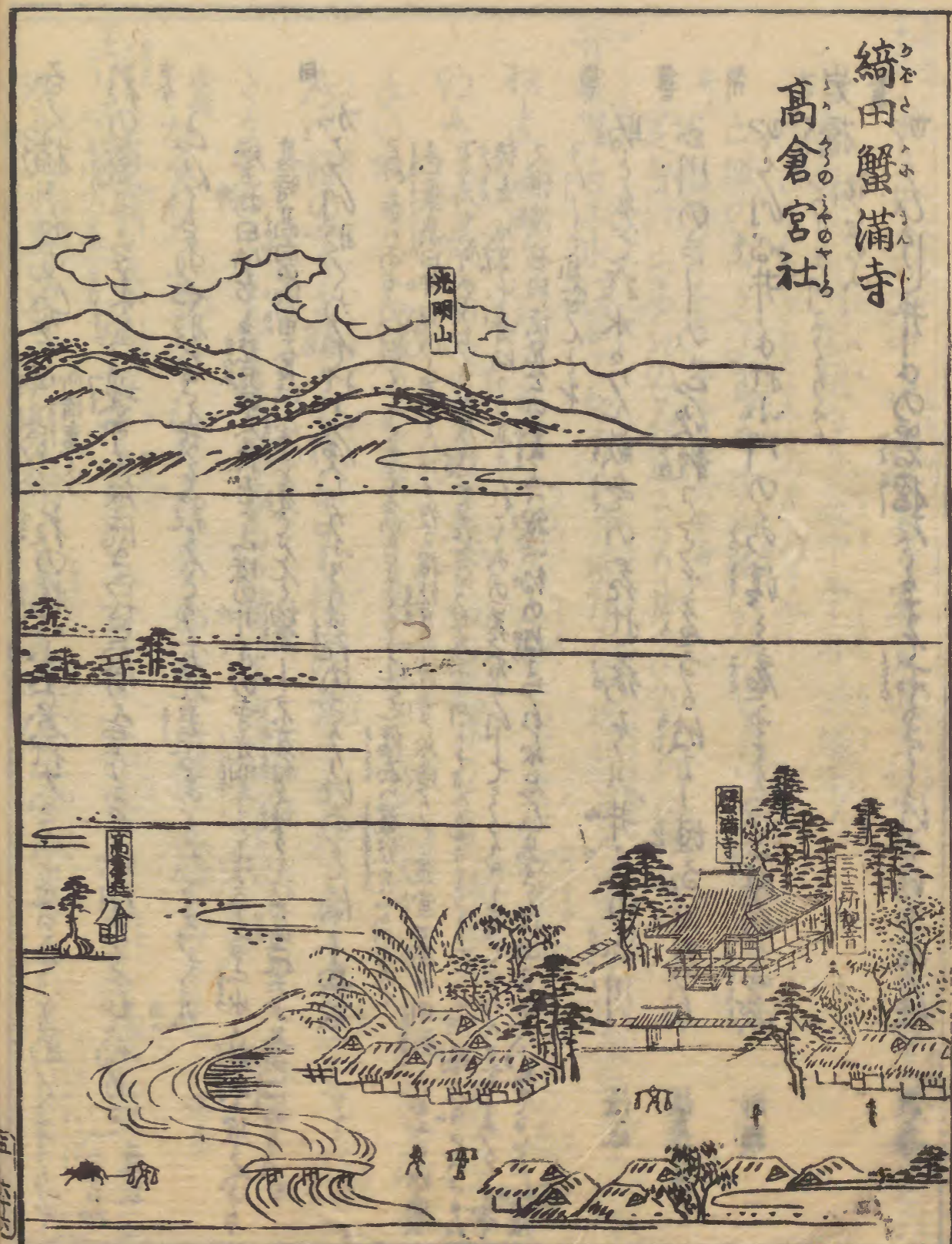
玉水井と里の小道は傍あり

山吹を咲くて蛙を水の底

鬼貫



玉水
井堤大石垣跡
玉井寺



綺田蟹浦寺
高倉宮社

井邊の玉川ハ
 名所六つ玉川の
 其一つなり
 左一は諸兄に
 いはれぬ茶靡
 牡丹 横山
 あり八重一
 咲きしれあは
 小映し七金蓋を
 つららゆふ
 あんらるる



指玉
 長原
 井邊の河風
 長原あえ
 うらたそ
 るしく
 山吹花
 玉鉉
 玉河の
 玉河の
 玉河の
 玉河の



高倉宮靈廟と玉水社南鳥居村のふちの後に白河院尊二の皇子茂仁親王と洛三高倉宮

小澤殿ありゆ高倉宮と稱する 平家物語曰宮ハ南都へ遷せられたるなりと云ふ事ハ三十三箇年ありて高倉宮

光明山寺の鳥居村前と遷つたなり雨のふりやうと稱するなり 何と云ふ事ハ久しき事なり

光明山寺の鳥居村の南郷田の地獄谷 織田の事

普門山蟹満寺の綺田村あり真言宗ありて奉る釋迦公と云々 紫銅比坐像 當寺傳 長八尺

記曰いつは卿人常々至善ありて佛はけりやう年あり女を令のらり知あり

普門品と誦して慈恵あり一日田圃を遊びたりやうね蟹とて殺さんといふ

買りの故りたり具の耕せしむる地を墓とてありたりを放さんといふ

さうりたりとて其の命の命し其墓を放さんといふ女を嫁して舞ふといふ

地けぬとて教とて春けり墓を吐出敷の中へ這ぬ家帰悔くとも

甲斐なる一具夜初果の及ぶ道の人あり今朝の約ありてありといふ

いふは後回をいふにやうとて今を経てやうといふ

歸りぬ女いふは後回をいふにやうとて今を経てやうといふ

二日るてやうといふにやうとて其の地を放しけり女の居たり室と這巡りて尾とて其を

とてやうといふにやうとて其の地を放しけり女の居たり室と這巡りて尾とて其を

く蟹とて其の地を放しけり女の居たり室と這巡りて尾とて其を

親を現しけりて海傍に居たり常々擁護せしむる父母は後生に女を

去り穿地を埋て其地を寺とて宮に具福と薦蟹満寺と號しける 一名紙幡寺

梶原社 綺田村ありたり所 梶原平二之景時 壺あり一夜を延喜式の

涌の杜 い杜之本多ありて 涌出社 多る所 和使坐天の夫を賣神あり 説く一夜涌出あり

北土野神童寺 入金剛廟院 綺田のふち中あり 山所伊別上野の御遷路あり 真言宗ありて

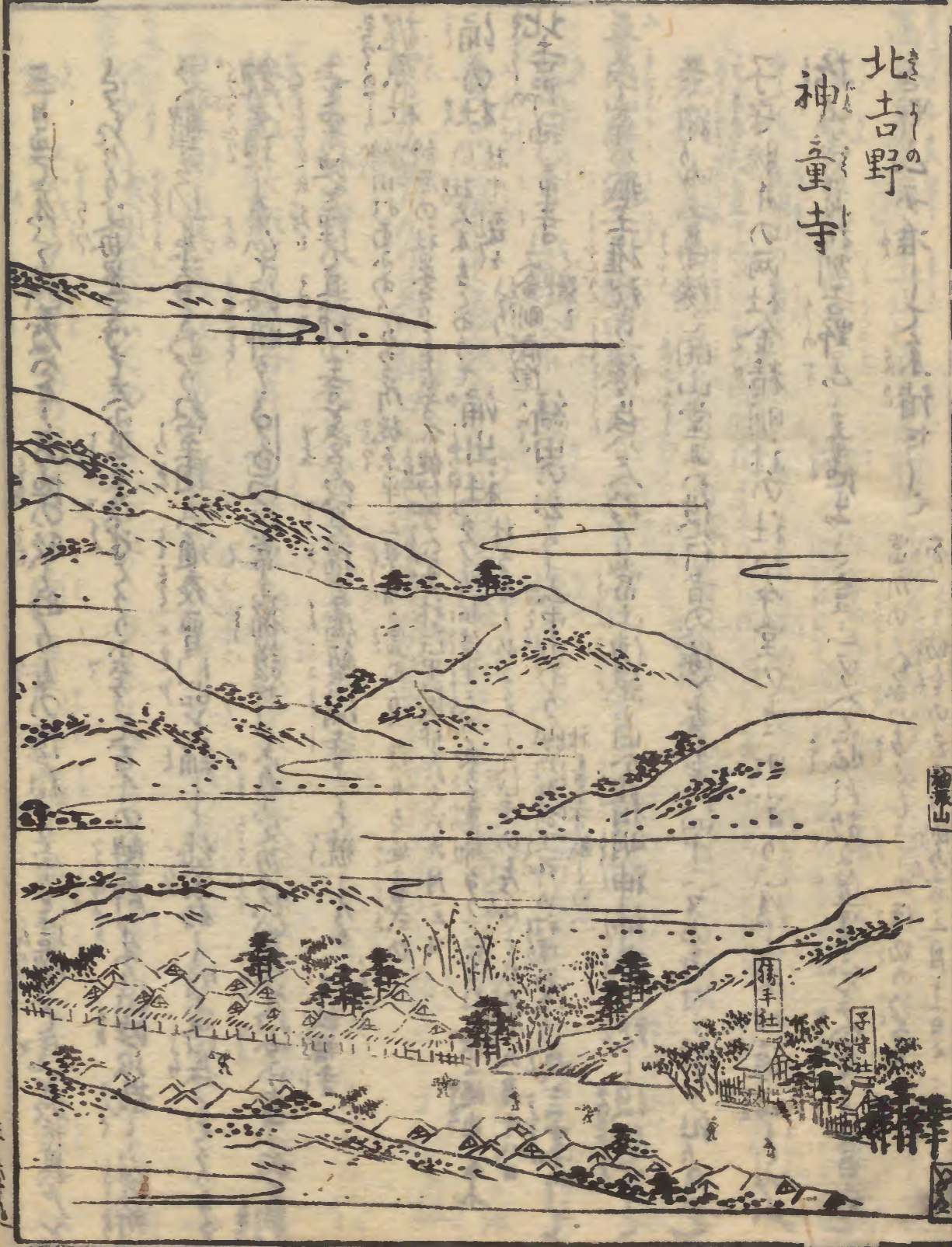
本尊の瘋王権現立像長八尺あり當山傳記曰金精明神神童とて役行者と

共二作りの本尊像之用山堂あり役行者の像と安並及四十二の所附あり

子守勝手両社金精明神の社に本堂のふちありけり後山神振あり

折い六昔折別吉野山毒地とて登山の人を悩む故に安置して入峯と書

吉野山を准して系譜せし 當所の人家の多くむすの傍のあり





新
湖恩菴
天神森
天神宮

玉下谷

六坊

天神



奥社

佐田家

方丈

六坊

妙勝禪寺本津川に西新村あり 酬恩菴禪宗にて同基は大應國師正應年中

小洲創一休和尚康正の比小再興と佛殿を修す釋迦佛を安置す 岡山堂おけの時目らのみて修す

大應國師後安永一方便一休和尚 安永おけの時目らのみて修す

酬恩菴の額 万の揚 一の塔其遺骨を瘞す常小推乃のい 安永おけの時目らのみて修す

方六の庭佐川田 幡宮堂集の西一町とあり 地主神主 佐川田喜吉の回廊あり

喜吉好む所あり 薪村の西とあり 天神社 薪村の南 天神宮天神社の西の堀あり

神南備山 水晶石あり 普賢寺 漢 天神社の西の堀あり 普賢寺漢天神社の西の堀あり

綴喜都 皇居を遷す 綴喜都 皇居を遷す 綴喜都 皇居を遷す

長月のほれた糸の秋さましくあり 長月のほれた糸の秋さましくあり

やんまつり 白むね 白むね 白むね

段々良不動堂 都谷の上とあり 大御堂都谷の上とあり

牛頭天王社 普賢寺谷の上とあり 若王寺普賢寺谷の上とあり

藏岡山若王寺の西あり 祝園下物の南とあり 土師祝園の南とあり

本津川一名泉川とあり 本津川一名泉川とあり 本津川一名泉川とあり

伊弉山田郡阿知とあり 伊弉山田郡阿知とあり 伊弉山田郡阿知とあり

月形も夏の上つる泉河川風涼し 月形も夏の上つる泉河川風涼し

泉河をたつるの月形も夏涼し 泉河をたつるの月形も夏涼し

おのて おのて おのて

本津れ渡り 京師より大和街道あり 本津れ渡り 京師より大和街道あり

の津宇都都大佛殿建立の付園あり 本津里 里の聖武帝

ありの所より ありの所より ありの所より

和泉本部墓 本津町の東あり 橋柱寺 本津の内大津村の東あり

今大智寺と号し 今大智寺と号し 今大智寺と号し

頭洗池 重衡の頭洗あり 頭洗池 重衡の頭洗あり

海修山寺



笠置寺



大石寺
山崎伊豆

大石寺

大石寺

大石寺

北笠置

観音谷

鹿の淵

福善院

大石寺

鹿路山



千手の彫

解脱大石

後醍醐天皇
御宇

本堂

鹿路山

大石寺

大石寺

大石寺

恭仁の都に回地ハ執原の西鹿背山のやうなり
聖武帝の所宇天平十二年十二月
始て官城を造り帝行幸し賀世との西の道よりあり
左京より西と右京とをより續日本紀に記すことあり

吹風みむしとのまきかんとおれ都に於るころは
新嘉古のつくり

泉のいつより人のととて終てふの都とあれり
兼氏

流園と執原の西加茂の流れなり
南都大佛殿建立の時伊賀より材木を組て
聖武帝宸襟を悩しぬ所良辨僧都岩堀よりりて千手の像を修しぬを岩山
砕散て道糸開く故に多くの材木を組て造ると流し具をりてる處あり

加茂のやうに執原より鴨村に至る道の傍あり
加茂郷を名うて申ふ
大村あり

鴨川
鴨川の別名なり
鴨の渡ふ所
川系あり

布當山
執原の西より一隔山とあり
泉川のやうなり

古郷と遠くあり
高園河内連

五月雨とあすまはる川
後

當の瓜置と號するは昔天武天皇此らに
鹿路山笠置寺の本津川の上笠置の山あり
麓に民家多し川坂嶮て雨村あり
南笠置北笠置といふ

駿馬巖小藤原屈と動は天皇危急
三寶の儀一安泰の儀

めりて此の佛園造営とて祈誓
既之感應ありて皇馬速り
進む故に其證として着御の箇笠取らるる遺一還幸の事

建立ありて笠置寺と號しぬ
藤原の坂あり
宗青の言に新義の

本堂の弥勒佛本尊なり
自然石の護六堂
月の間天下安全の徳ありて二月堂

三月堂あり當の圓祿の後南都東大寺
慈て二月三月の徳法あり

弥勒石
天武帝は石をたてて
高き一四間横四間より面影の石を面影て佛像なり

薬師石
高き十間余
横五間余
虚空藏石
佛像解り

千手崖
胎内挑
奥の原にせり

楠書判石
楠正成石面を未判
護摩壇跡
良縁は所ありて
貝吹岩

鹿路山笠置寺の本津川の上笠置の山あり

鹿路山笠置寺の本津川の上笠置の山あり

鹿路山笠置寺の本津川の上笠置の山あり

鹿路山笠置寺の本津川の上笠置の山あり

漢代佛塔の付具の形 榎本神當山の鐘樓解脫上人冥工より陶浮檀金依

銘二曰 益置山般若臺建文七年丙辰八月十五日 般若臺後醍醐の西のあり解脫

大和尚南無阿弥陀佛 所より 解脫上人塔八町より東あり 後醍醐千手龍石正重の龍金剛

童子龍此のわづらひあり後醍醐帝の皇居當山の嶺より奉九二の丸

の形玉師石漆勒石の上の平地より楠正成より始て清味方より陶山

小見より夜討より所をいこの背より水の方よりいなり般若の巖石といそ

鳥も翔より古松枝よりと崖蒼苔露るより麓あり泉川と白浪と巖と

く勢あり水流の委曲驚地小似より山別より一の勝地より千巖秀と遠い萬

壑流依争より水の矣といつ也

栗栖天神宮益置山の麓人家の西よりあり所天満天神と足置置寺の寺後并

飛鳥路益置の山十余町あり陶山山足より山よりいより有市飛鳥路の北よりをまり

大河原有市のあり所と城と和伊賀等の國と堀より

